第64回

九州地区公民館研究大会
福岡大会 報告書

平成25年度　第58回福岡県公民館大会

活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして
～自立･協働･創造の実現は公民館から～

福岡国際会議場

提供：福岡市

福岡サンパレス

提供：福岡市

福岡市民会館

期 日　【1日目】分科会　平成25年8月29日(木)
　　【2日目】全体会　平成25年8月30日(金)

会 場　【1日目】分科会　福岡国際会議場
　　福岡サンパレス
　　【2日目】全体会　福岡市民会館

目　次

開催要項 2
全体会（写真で振り返る）..... 4
1　分科会構成 8
　　分科会構成 9
　　分科会役割者一覧..... 10
2　分科会報告 11
　　第１分科会　地域教育力の向上 12
　　第２分科会　家庭教育..... 17
　　第３分科会　高齢化社会への対応 22
　　第４分科会　人権教育..... 27
　　第５分科会　自治公民館活動 32
　　第６分科会　青少年教育..... 37
　　第７分科会　ボランティア活動 44
3　記念講演 49
4　組織等 67
　　福岡大会運営組織..... 68
　　福岡大会企画委員会・事務局 69
　　九州地区公民館研究大会の歩み 70
　　参加者一覧（県別・分科会別）..... 71
　　大会運営事務分担..... 72

博多祇園山笠

平成25年度　第64回九州地区公民館研究大会　福岡大会
平成25年度　第58回福岡県公民館大会

開催要項

1　趣　旨

近年、少子高齢化や核家族化などの進展、情報技術の高度化、ライフスタイルや価値観の多様化など、社会を取り巻く環境が大きく変化し、地域における人間関係や連帯感の希薄化、地域コミュニティの再生が大きな課題となっている。

このような中、公民館は、地域住民の学習活動や交流の拠点施設として、地域の実態に即した様々な活動を展開してきた。今後は、個人の要望と社会の要請に応えるため、活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして、公民館活動を中核とした体制や環境を整えていく必要がある。

そこで、九州の公民館をはじめ、生涯学習・社会教育関係者が一堂に会し、日頃の実践をもとに、これからの公民館の在り方や直面する諸問題の解決に向けて研究協議を深め、今後の公民館活動の一層の充実・発展を図るために本研究大会を開催する。

2　大会テーマ

「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして」
～自立・協働・創造の実現は公民館から～

3　主　催

公益社団法人全国公民館連合会、九州公民館連合会、福岡県公民館連合会、
福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会

4　後　援

文部科学省、九州各県教育委員会、福岡県、北九州市、福岡県市長会、福岡県町村会、
福岡県市町村教育委員会連絡協議会、福岡県社会教育委員連絡協議会、福岡県視聴覚教育協会、
福岡県青少年問題協議会、福岡県地域婦人会連絡協議会、福岡県子ども会連合会、福岡県 PTA 連合会、
福岡県文化団体連合会、福岡県明るい選挙推進協議会、福岡県金融広報委員会

5　期　日

平成25年８月29日（木）～30日（金）

6　会　場

（１）分科会会場（１日目）　福岡国際会議場
福岡市博多区石城町２－１
TEL：092-262-4111

福岡サンパレス
福岡市博多区築港本町２－１
TEL：092-272-1123

（２）全体会会場（２日目）　福岡市民会館
福岡市中央区天神５-１-23
TEL：092-761-6567

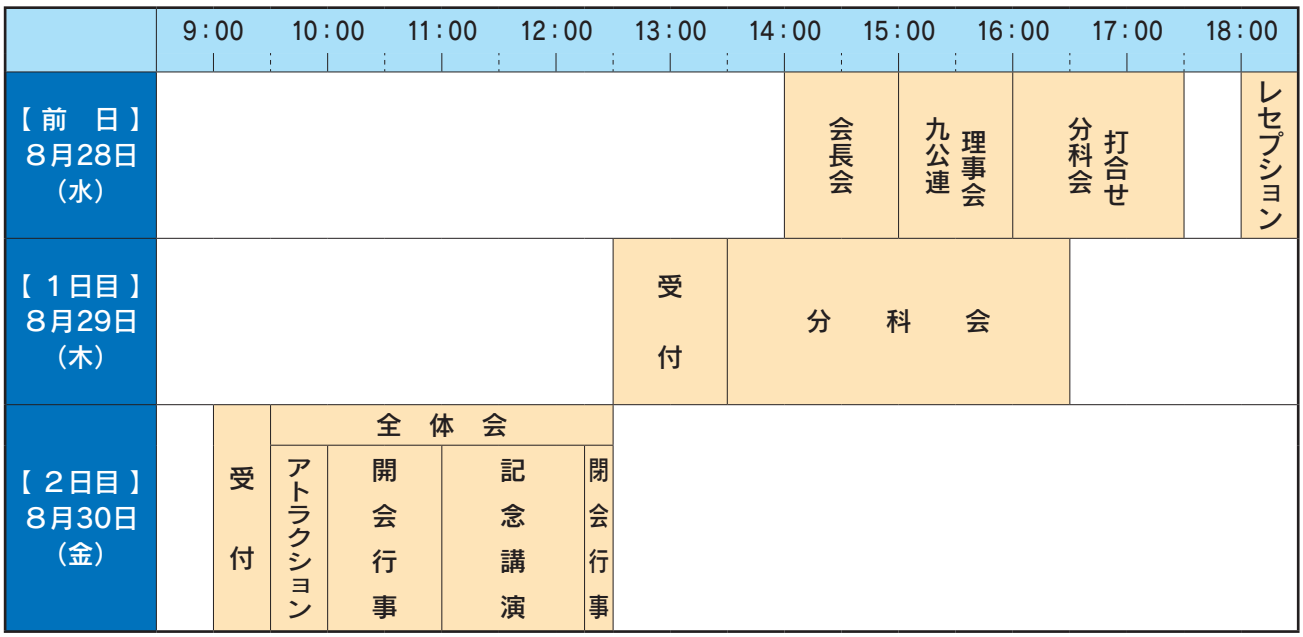
7　参加者

（１）公民館等関係者（公民館長、公民館主事及び公民館職員、公民館運営審議会委員、
自治公民館関係者、コミュニティ施設関係者等）
（２）教育委員会関係者（教育委員、社会教育委員、教育委員会職員等）
（３）社会教育団体関係者
（４）市町村長部局関係者

（5）学校教育関係者
（6）教育・スポーツ・文化・NPO 関係者
（7）その他

8　参加者数　2,180人

9　日　程



（1）1日目　分科会　　会場　福岡国際会議場・福岡サンパレス

受　付　　12：30～13：30
分科会　　13：30～16：30

（2）2日目　全体会　　会場　福岡市民会館

受　付　　9：00～9：30
アトラクション　9：30～10：00
「精華女子高等学校吹奏楽部による演奏」

開会行事　　10：00～11：00
・開会のことば　　九州公民館連合会副会長（長崎県公民館連絡協議会会長）
・国歌斉唱
・公民館の歌斉唱
・主催者あいさつ　九州公民館連合会会長（福岡県公民館連合会会長）
　公益社団法人全国公民館連合会会長
・来賓祝辞　　福岡県知事
　福岡県議会議長
・歓迎のことば　　福岡市長
・表　　彰

記念講演　　11：00～12：20
・講　　師　　野田　かつひこ　　シンガー・ソングライター
・演　　題　　「ふるさとを想う」

閉会行事　　12：20～12：30
・閉会のことば　　九州公民館連合会副会長（鹿児島県公民館連絡協議会会長）

全体会

福岡市民会館

主催者あいさつ

開会のことば

来賓祝辞

歓迎のことば

全体会
福岡市民会館

表彰

記念講演

公民館旗引き継ぎ

閉会のことば

歓迎
第64回
九州地区公民館研究大会
全体会会場

会場の様子

開会行事の様子

全体会
福岡市民会館

アトラクション

1

分科会構成

小倉城

分科会構成

分科会名		討議のテーマ	討議の柱	会場（収容人数）
第1分科会	地域教育力の向上	学校、家庭、地域社会による教育の協働を推進するための公民館活動の在り方	①地域の関係機関・団体等と連携した公民館活動の在り方について ②学校、家庭、地域による教育の協働を推進するための公民館活動の在り方について	福岡サンパレス パレスルームA／B （306名）
第2分科会	家庭教育	家庭教育支援のための公民館活動の在り方	①家庭の教育力向上に関する学習機会や情報を提供する公民館活動の在り方について ②子育てを支援し、ネットワークを広げる公民館活動の在り方について（ＮＰＯ等の多様な団体との連携を含む）	福岡国際会議場 502・503 （195名）
第3分科会	高齢化社会への対応	高齢化社会における課題解決に取り組む公民館活動の在り方	①高齢者の社会参加を促進する公民館活動の在り方について ②地域福祉等の推進に向けた公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 501 （264名）
第4分科会	人権教育	人権を尊重し、明るい社会づくりに向けた公民館活動の在り方	①人権感覚を高め、明るい地域づくりをめざす公民館活動の在り方について ②共生社会の実現をめざし、人権教育を推進する公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 411・412 （195名）
第5分科会	自治公民館活動	豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方	①住民の生きがいづくりを促進するための講座とその運営の在り方について ②自治意識・連帯感を高めるための組織・運営の在り方について	福岡国際会議場 201・202 203・204 （882名）
第6分科会	青少年教育	青少年の健全育成と体験活動を推進する公民館活動の在り方	①地域で子どもを見守り、育てる公民館活動の在り方について ②体験活動、ボランティア活動等を推進する公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 409・410 （195名）
第7分科会	ボランティア活動	ボランティアや地域貢献活動による地域の活性化を目指した公民館活動の在り方	①地域の課題解決をめざすボランティアや地域貢献活動の在り方について ②地域の人材・資源を生かし、地域を活性化させるための公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 413・414 （195名）

分科会役割者一覧

	発表者	助言者	司会者	記録者	運営責任者	会場責任者	受付責任者
第1分科会	宮崎県大人・古園地区協議会　代表 甲斐　睦彦 嘉麻市嘉穂地区公民館足白分館公民館主事 森　裕治 嘉麻市中央公民館係長 矢野　義博	宮崎県教育庁生涯学習課主幹 森山　欣一	筑豊教育事務所主任社会教育主事 松田　雄三	筑豊教育事務所社会教育主事 古賀　千絵 三浦　風弥	糸田町教育委員会教務課課長補佐 尾崎　満敏	筑豊教育事務所社会教育主事 石塲　広規	筑豊教育事務所社会教育主事 上野　修司
第2分科会	沖縄県普天間一区自治会　自治会長 屋嘉比　盛栄 北九州市立鳴水市民センター館長 永田　恭子	沖縄県公立大学法人名桜大学教授 嘉納　英明	福岡県立社会教育総合センター主任社会教育主事 北冨　真治	北九州市門司区役所コミュニティ支援課社会教育主事 篠原　幸枝 北九州市小倉南区役所コミュニティ支援課社会教育主事 松尾　まゆみ	北九州市若松区役所コミュニティ支援課社会教育主事 下神　晶子	北九州市教育委員会生涯学習課社会教育主事 井上　幸一郎	北九州市八幡西区役所コミュニティ支援課社会教育主事 金田　裕美子
第3分科会	鹿児島市喜入公民館主査 牧之瀬　陽一 糸島市立福吉公民館館長 森田　季久	鹿児島国際大学福祉社会学部教授 高橋　信行	福岡教育事務所主任社会教育主事 重冨　泰敏	福岡教育事務所社会教育主事 大谷　俊浩 香月　伸公	宇美町教育委員会社会教育課主査 井川　洋志	宗像市市民協働・環境部コミュニティ・協働推進課政策推進係主事 福島　樹	福津市中央公民館係長 大石　直子
第4分科会	佐賀市立久保田公民館公民館主事（佐賀市役所久保田出張所教育課生涯学習係長） 吉田　浩子 福岡市青葉公民館館長 山本　佑治	佐賀県多久市中央公民館館長（佐賀県公民館連合会　副会長） 川内丸　信吾	北九州教育事務所主任社会教育主事 松井　淳	福岡市東区役所地域支援課地域支援係長 上野　真由美 内野　保基	福岡市市民局公民館調整課運営係長 日野　雅彦	福岡市市民局公民館調整課管理係長 守田　宣昭	福岡市市民局公民館調整課事務吏員 村上　由起
第5分科会	長崎県田ノ頭郷自治公民館元総務部長 田中　康彦 豊前市前川公民館 中本　勝子	長崎県教育庁生涯学習課社会教育推進班係長 椋本　博志	京築教育事務所主任社会教育主事 猪本　満昭	京築教育事務所社会教育主事補 井上　育子 北九州教育事務所社会教育主事 村井　政文	行橋市教育委員会生涯学習課係長 村田　貴志	豊前市教育委員会教育課課長補佐 横川　要	上毛町教育委員会教務課社会教育係長 村上　英之
第6分科会	大分県由布市教育委員会社会教育課生涯学習係長 長谷川　美由紀 大刀洗町教育委員会生涯学習課社会教育指導員 宮崎　誠	大分大学高等教育開発センター准教授 岡田　正彦	北筑後教育事務所主任社会教育主事 中原　聡	北筑後教育事務所社会教育主事 岩田　史江 石橋　篤	大刀洗町教育委員会生涯学習課生涯学習係長 矢野　智行	大刀洗町教育委員会生涯学習課課長 福永　康雄	大刀洗町教育委員会生涯学習課地域活動指導員 弥永　理恵子
第7分科会	熊本県益城町教育委員会生涯学習課　係長 村上　康幸 大牟田市三池地区公民館館長 鷹尾　俊介	熊本県生涯学習推進センター審議員 野尻　絹子	南筑後教育事務所主任社会教育主事 安達　浩文	南筑後教育事務所社会教育主事 安達　幸子 松延　聡	筑後市教育委員会中央公民館館長 水落　龍彦	筑後市教育委員会中央公民館庶務係長 中村　敏和	筑後市教育委員会中央公民館庶務係 弓木野　真里

2

分科会報告

柳川の川下り

○第１分科会　「地域教育力の向上」

会場：福岡サンパレス　パレスルーム

討議のテーマ

学校、家庭、地域社会による教育の協働を推進するための公民館活動の在り方

討議の柱

①地域の関係機関・団体等と連携した公民館活動の在り方について
②学校、家庭、地域による教育の協働を推進するための公民館活動の在り方について

発表者

	宮崎県大人・古園地区協議会　代表	甲　斐　睦　彦
	嘉麻市嘉穂地区公民館　足白分館　公民館主事	森　　裕　治
	嘉麻市中央公民館　係長	矢　野　義　博

助言者

	宮崎県教育庁　生涯学習課　主幹	森　山　欣　一

・司　会　者	筑豊教育事務所　主任社会教育主事	松　田　雄　三
・記　録　者	筑豊教育事務所　社会教育主事	古　賀　千　絵 三　浦　風　弥
・運営責任者	糸田町教育委員会　教務課	尾　﨑　満　敏
・会場責任者	筑豊教育事務所　社会教育主事	石　塲　広　規
・受付責任者	筑豊教育事務所　社会教育主事	上　野　修　司

Ⅱ 発表要旨

発表 1 「ポピーで育む地域の絆！」

宮崎県日之影町 12 地区大人・古園地区協議会　代表　甲　斐　睦　彦

少子高齢化、核家族化が進む中、日之影町長期総合計画を基に「日之影町12地区大人・古園地区協議会」が発足した。公民館と協議会が連携して地域住民全員参加型をめざし「やらされている」から「やっている」と自発的行動に繋げ、知恵と行動力と連帯感の創出を目的とした。年間の主な8つの取組として①ポピーの植え付け、②ポピー祭りの開催、③ポピーにまつわる婚活行事、④展望台「天空の丘」の開発と維持、⑤「初日の出を見る会」の開催、⑥地区に伝わる伝統芸能の継承、⑦会員の情報交換、⑧地域が元気になる企画立案を行っている。まず、ステップ1として、ポピーを核にイベントを実施する計画を立てた。次に、ステップ2として、ポピーの種まきで地元男性と県内女性の婚活を行った。そして、ステップ3として、ポピー祭りを開催した。地元の中学生、大学、消防団、青年団、さらには県「中山間盛り上げ隊」、NPO 等の協力で有意義な祭りになり「ポピーで育む地域の絆」が生まれた。さらにステップ4として、「初日の出を見る会」という自発的行動へ広がった。これらの取組は地元住民の楽しみを持たせるとともに絆を深め、さらに活力につながり課題解決の方向性を示すものとなった。今後も短期で終わらせない工夫をしていきたい。

発表 2 「子どもと地域を結ぶ学校と公民館の役割」 ～「足白っ子ひろば」をとおして～

嘉麻市嘉穂地区公民館足白分館　公民館主事　森　　裕治
嘉麻市中央公民館　係長　矢　野　義　博

小学校の統廃合が目前にせまり、地域コミュニティの衰退、地域の教育力の低下という課題をもとに平成23年2月から分館運営委員会や地域の団体で会議を行ってきた。その結果、全村 PTA と連携し、足白地区全児童と全住民が関わる「足白っ子ひろば」を開催し、地域の特色「人・もの・こと」を活かした事業を行った。「人・もの」では、各組織団体が役割分担を担い、活動場所の田んぼが進んで提供された。「こと」では、地域の特色である農業を活かし、農業体験を中心に田んぼ遊びや地元の食材を食する等地域に密着した体験活動を行った。この事業では3つの成果が挙げられる。一つ目は、小学校と公民館、地域住民の思いが一つにまとまり、「足白っ子ひろば」の構想から実施まで行った。二つ目は、地域の方が多く関わり協力体制が構築され、学校・地域・公民館の信頼関係が深まった。三つ目は、地域住民が今後の足白を考え、地域の子どもは地域で育てる事が大切であるという思いがさらに深まった。今後の課題として、「学校・地域・公民館」に代り「地域全体で考える」ということを「足白っ子ひろば」と融合させ、地域コミュニティの向上を図っていきたい。さらに、公民館で地域課題解決する取組や子どもの意欲・やる気を育てる取組を行っていきたい。

Ⅲ 質疑応答

1.〔発表１について〕

Q：地域住民に「やっている」という意識にさせるために重要なことは何か。また、そうなるための公民館館長の役割は何か。（福岡県）

A：役員にイベントや地区協議会で意見を出してもらう。館長の役割としては、協議会役員に連絡を取り、イベント等に一緒に関わっていく。（発表者）

Q：「盛り上げ隊」を地域とどのように結びつけているか。（福岡県）

A：役場の地域振興課を通じて申し込む。「青年団」等には、直接連絡したり、会合に出席したりして要請を行う。（発表者）

Q：ボランティアを集める工夫や研修等で質の向上を図っているのか。（福岡県）

A：県の広報誌や口コミで公募した。参加者数は増えている。研修は行っていない。参加者は手弁当で参加している。（発表者）

Q：婚活の取組やその後の取組、参加女性の交通費について教えてほしい。（宮崎県）

A：宮崎新聞や無料広報誌で県内に広報している。夜神楽や歌舞伎の祭等年間を通じ各行事に招待して継続した取組を行っている。交通費は自己負担である。（発表者）

Q：伝統芸能の資金、人員・後継者の確保はどのようにしているのか。（宮崎県）

A：資金は、公民館の年間予算を確保している。人員は、地区内外からの参加者や文化財愛護少年団の子ども達である。文化財愛護少年団は大人になっても関わっている。中学校では文化祭で歌舞伎を一演目上演している。（発表者）

Q：協議会12名への声かけ方法とメンバーの構成はどうなっているのか。（福岡県）

A：まず「盛り上げ隊」６名に声かけ、イベント開催ごとに増やす。12名の仕事は異なる。年代は40～65歳、若年層や子育て世代は少ない。（発表者）

2.〔発表２について〕

Q：学校との連携とイベント以外で日頃の活動はどのようなものか。（福岡県）

A：学校職員のほとんどが準備から参加している。アンビシャスのなごりは無い。夏休みにときめき学習を行い子どもと関わっている。（発表者）

Q：廃校後、子どもは自宅から嘉穂小学校に通うのか、寮生活を行うのか。（福岡県）

A：廃校後は自宅からスクールバスで通う。学童保育へ行く子が多いので地域で過ごす子が少なくなる。公民館を開放して子どもを集めるような取組を行いたい。（発表者）

Q：公民館主事の立場はどういうものか。また、協力者はいるのか。（佐賀県）

A：行政職員ではない。本年度より主事を置いており、公民館には館長と主事がいる。運営委員や地域住民と活動している。若い世代も引き入れた活動を行いたい。（発表者）

Q：若者が定住する地域社会にするための産業振興を行っているか。（宮崎県）

A：産業として農業や果樹園を、営農組合で農地管理を行っている。また、農作物の地元販売や他地域から移住者受入れを行いたい。（発表者）

Ⅲ 研究討議

1　討議の柱①について（討議の柱②もあわせて）

・学校が公民館に発信して区長さんたちを集め、地域の色んな行事に子どもたちが活動できる場を作ってもらえないかということを相談した。当初は奉仕活動という形で強制的に取り組んでいった面もある。今では地域の夏祭り等で中学生が司会をやってみたり、コミュニティセンターで開催している勉強会に参加していた子どもたちが大学生になって、指導者という立場から小学生たちに勉強を教えるようになった。（福岡県）

・自治公民館で、夏休みに開館日を設け、子どもたちを通わせ、勉強会を開き、勉強の後は釣りをしたりなど色々な活動を22地区の自治公民館で取り組んでいる。これらの取組には学校の先生や、公民館館長会も協力している。最初は学校側の方からの投げかけられたものだった。（宮崎県）

・地域の中学校からは毎年夏休み前に中学生ボランティアということで子どもたちを地域で受け入れる取組みを３年前から行っている。子どもたちが地域の中で必要とされ、自分たちが役に立っているという意識を持てることに学校から感謝された。（福岡県）

・文科省のコミュニティースクールの指定校ということもあって、学校側から、地域とボランティア活動を今後進めていきたいという申し入れがあった。夏祭りの実行委員会等にも参加してもらい、運営から携わってもらうようにしている。今後も学校と地域が一体となって、活動できるよう取り組んでいきたい。（福岡県）

・私達の地域も少子高齢化が進んでいる。公民館館長がリーダーシップをとって三世代交流会を行っている。（宮崎県）

・様々な公民館活動と家庭を繋げるような取組を行っている。教育基本法第10条にも、子どもの教育には保護者がその責任を有するというふうに定められている。それを踏まえて、公民館講座で子育て講座等を行っている。親子でチャレンジする講座等を設けている。（宮崎県）

・町づくりサポーター養成講座を昨年度から開設している。過疎化が進んでおり、町づくりを進めていくため、１年間の講座を開設した。受諾した方々が中心となって本年度は町づくりのための団体を立ち上げて活動している。（熊本県）

・ボランティア養成講座を５回ほど実施した後、ボランティアのグループができている。シルバー人材の仕事、一人暮らしの方の家具の移動、引越しのときの荷造り、子育てのお母さん達が病院に行くときの託児、わいわい広場の見守り、子ども達との花植え活動等を行っている。（福岡県）

Ⅳ まとめ（指導助言）

２実践とも地域の核になる行事を通して公民館の活性化を図った取組である。地域の実状に合わせた協働の進め方には、①地域の特性や自然を活用する「活かす」、②課題の解決を図る「改善する」、③弱点を補強する「補う」という３つの視点がある。

①について、大人・古園地区では、地域の特性、歴史文化という教育的視点を活かした伝統芸能が継承されている。これは公民館が担い、地域住民が身近な取組として参加貢献できるものである。足白地区では、全村 PTA により全員参加のもと各組織や団体が役割分担をし、運営に携わっている。活動内容は地域の特性や季節に応じた農業体験と遊びという魅力的な構成である。２実践の今後の課題は、人材育成と各組織や団体の中心的人材の発掘である。地域住民の技術技能を活かせる学習の場があると活動が広がり学びの場となる。さらには次の活動の意欲の高まりにつながる。

②について、大人・古園地区の公民館と地区協議会が連携したイベントは、少子高齢化、晩婚化に対する婚活というユニークな取組で、一過性でなく年間通した地域意識を保っている。足白地区では、廃校前に公民館が地域と子ども達をつなぐ取組である。この背景には、学校、公民館、地域が子ども達に郷土愛を持たせたいという共通の思いがある。このように、目標を共有して取組を進めることは大切なことである。

③について、大人・古園地区では、公民館と地区協議会の共同、さらには、地元団体、県、NPO 法人等多くの方が関わっている。今後は、町内外参加者が自分達の祭だと思える手立てを講じていく必要がある。一方、足白地区では、団体や組織の持つ力を行事で活かす、協力体制が構築されている。今後も多くの方が関われるような手立てをとりながら事業の充実を図ってもらいたい。

今後も、公民館活動を通じた人づくりや年齢、性別、所属を超えたネットワークが地域を支えることにつながる。子どもが公民館行事や地域行事に積極的に参画し、活動を通して地域のよさや課題にふれて、地域課題解決の意識をもつことができるよう、まずは、地域の大人が認識を深めることが必要である。地域の教育力があるとは、地域の中で大人と子どもの交流がごく当たり前のように行われることだと考える。

最後に、公民館活動が充実し、多くの方が活動に参加するために必要なことは、①自分が主人公になれること、②難しすぎない易しすぎないレベルということ、③繰り返しすることで効果があるという３つである。

①は、活動に主体的に関わりやり遂げたという満足感・充実感を味わえるような企画・運営を行うことである。これによって、参加者が参画者へと変わっていく。②は、地域住民が楽しく取組める身近な場所や人と気軽に取組める活動を仕組む事が大切である。また、活動の内容・期間も適度だと参加者のやる気も引き出せる。③は、複数回参加で参加者の思いや地域住民との絆が深まる。一過性の取組でなく、取組・評価・改善を繰り返し行うことで参加者の拡大や内容の充実が図られる。

○第２分科会　「家庭教育」

会場：福岡国際会議場　502・503

討議のテーマ

家庭教育支援のための公民館活動の在り方

討議の柱

①家庭の教育力向上に関する学習機会や情報を提供する公民館活動の在り方について
②子育てを支援し、ネットワークを広げる公民館活動の在り方について（NPO 等の多様な団体との連携を含む）

発表者

沖縄県普天間一区自治会　自治会長	屋嘉比　盛　栄
北九州市立鳴水市民センター　館長	永　田　恭　子

助言者

沖縄県公立大学法人　名桜大学　教授	嘉　納　英　明

・司　会　者	福岡県立社会教育総合センター　主任社会教育主事	北　冨　真　治
・記　録　者	北九州市門司区役所コミュニティ支援課　社会教育主事	篠　原　幸　枝
	北九州市小倉南区役所コミュニティ支援課　社会教育主事	松　尾　まゆみ
・運営責任者	北九州市若松区役所コミュニティ支援課　社会教育主事	下　神　晶　子
・会場責任者	北九州市教育委員会生涯学習課　社会教育主事	井　上　幸一郎
・受付責任者	北九州市八幡西区役所コミュニティ支援課　社会教育主事	金　田　裕美子

Ⅱ 発表要旨

発表 1　公民館における家庭教育の取り組み ～「普天間一区スイミー子ども育成会」との協力～

沖縄県宜野湾市普天間一区自治会長　**屋嘉比　盛　栄**

家庭教育とは全ての教育の原点である。今回のテーマは、公民館で行われる諸行事に「スイミー子ども育成会」と協力し親子や家族で参加することにより家庭教育の一助になるであろうと設定した。

活動の内容は大きく分けて自治会行事と子ども育成会行事に分けられる。自治会行事は、宜野湾市の福祉振興基金や市観光振興協会の「ひやみちか基金」等様々な助成金を活用して行い、地域高齢者とのふれあいや親子共同作業で家庭教育の実践をしている。因みに「ひやみちか」とは、沖縄の言葉で「よいしょ」「頑張ろう」とか「掛け声」のことである。

次に、子ども育成会の行事では、歓迎会やクリスマスパーティー、青年会の指導による子どもエイサー道ジュネーなど年間を通して地域と協力して行っている。今後も様々な活動で培った経験を活かし、持続可能な取り組みにしていきたい。

発表 2　鳴水校区　よいところ　ふれ愛　ささえ愛 子どもと一緒に育つまち

北九州市立鳴水市民センター館長　**永　田　恭　子**

鳴水市民センターは北九州市で最も人口の多い八幡西区にあり、区の平均より少子高齢化が進んでいる。そこで、健康ウォーキングの強化を図るとともに、まちの景観を美化する環境ウォーキング等を活用し、家庭や地域の教育力の向上につなげるためのよりよい子育ての環境づくりに取り組んだ。

夏休みのラジオ体操には延べ4,000人が参加。「早寝・早起き・朝ごはん」を実践し、基本的生活習慣の定着を図っている。地球に優しい環境学習にも取り組み、野菜を栽培し料理を作り、生ごみの分別からコンポストづくりを通して、エコへの意識を高めている。

また、家庭教育学級への関心も高く、親子参加の機会ともなれば100名の参加で盛り上がる。

一つひとつの学びが、次につながってはいるが、家庭教育支援はまだ始まったばかり。このまちに住んでよかった、生まれてよかった、子育てしてよかったと思える子育てに優しい地域社会が実現できるように、地域のまちづくり協議会と一緒に住みよいまちをつくっていきたい。

Ⅲ 質疑応答

1.〔発表１について〕

Q：自治会加入率48.6%とあるが、これは平均なのか低いのか？（福岡）

A：宜野湾市全体の平均が34%、48.6%は平均くらいだと思う。（発表者）

Q：①「夏休みの宿題会」の指導者は？
②自治会と公民館の関係は？（佐賀）

A：①小学校でも算数などかなり難しいので、私が一人で指導している。
②自治会長と公民館長を兼任。何か行事があれば互いに協力している。（発表者）

Q：子ども会の人数と行事毎の参加者数は？声かけ等取り組みは？（福岡）

A：子ども会は40名。エイサー（25名）ピクニック（40名）クリスマスパーティー（40名）グラウンドゴルフ（20名）声かけはしっかりやる。（発表者）

Q：多くの助成金を活用しているが、各助成金の額は？（鹿児島）

A：ピクニック（福祉振興基金25万）、はごろも祭り（観光振興協会2.5万）、餅つき（観光振興協会３万）、グラウンドゴルフ（社会福祉協議会３万）。（発表者）

2.〔発表２について〕

Q：一つの学びが次につながったとの表現について、具体的に教えて。（沖縄）

A：講座開催する中で、次々企画案が出て学びの連鎖が生まれている。（発表者）

Q：家庭教育学級のプログラムを考えるのは学級生か、センターか？熊本では、共働きが多く学級生集めに苦労しているがその点の工夫は？（熊本）

A：PTA、学校関係者、センター関係者、主事、主事補等が事前会議で話し合って、人権教育を含むプログラムを決める。学級生を募集する際には、開催する時間帯や親子で参加しやすいものなどを考慮している。（発表者）

Q：①子育てサポーターとは自主グループ？どんな養成をして結成したのか？
②評価で利用頻度が増えた来館者、地域が活性したとあるが？（大分）

A：①北九州市には、子育てサポーター制度がある。各区で研修、養成した後、市教育委員会に登録、市民センターを拠点として活動。
②以前の年間来館者は３万人程度だったが、今は６万人を超えている。若い母親が子どもを連れて集うようになった。声をかけあって気軽にセンターに来る。（発表者）

Ⅲ 研究討議

1　討議の柱①について

・子育てサロンの代表をしているが、サロンでは支援者も楽しめることを大事にしている。子どもたちを見守りながら、お母さんたちには何か聞かれれば答えている。イベントなどに出てきていない母親が心配である。（福岡県）

・家庭教育力の低下が課題である。市民センターは人と人を横に広げつなげていくことをしている。また、情報発信や企画を大事にしている。高齢化が進む中で高齢者の知恵を若い方につなげ育んでいくことに日々努力している。（福岡県）

・公民館は人のつながりをつくる、つながるきっかけをつくるところと思う。今回の発表での評価と成果が次への学びとなった。地域の活動が主体性を持って活性化したまちづくりに取り組んでいるとはすばらしい。あきらめず取り組みをするということは20～30年先の地域を耕していくことになる。学んだことを少しでも自分の地域やまちにどのように還元していけるか考えていきたい。（福岡県）

・全戸145戸。学校行事や公民館活動は全員で取り組む。学校参観率は100%。父母が忙しいと祖父母が参観にいく。運動会の準備や進行はすべて公民館や青年団等全員で行う。全員が家族という形の地域である。焼畑体験学習等共同作業をやって、地域の伝統を子どもに伝えることや地域力こそが公民館の力だと感じる。山間部の学校で40名在籍し、子どもたちも生き生きと育っている。そのため地域に帰ってくる若者が増え、後継者の心配がない。（宮崎県）

2　討議の柱②について

・自治会の行事に参加者が少なかったが、子ども会と手を組み、子どもが来れば三世代が来るようになった。（発表者）

・イベントで多くの方を巻き込むためには、子どもを主体にすることで、祖父母や保護者、兄弟が参加する。また自分たちが楽しむ。ボランティアの方にも役割をもってもらい、達成感を感じてもらうことにより次へとつなげていく。（発表者）

・公民館の館長の任期が２年だが、継続した形にするには４年ぐらいでないと何もできない。（福岡県）

・市民センターの利用促進があがったのは職員とセンターを支える多くのサポーター・関係者の努力との相乗効果によるもの。そして人と人との関係ができていった。ポイントはふり返りである。（助言者）

・イベントではスタッフは黒子。地域の方を前面にすると加わってよかったといってもらえる。その積み重ねを行っている。（発表者）

・高齢化が進み役員等の組織の変更を検討中である。（福岡県）

Ⅳ まとめ（指導助言）

沖縄の発表については、自治公民館の中では活発な活動をしている。①アクティブな活動②内容作りや楽しい行事は人をひきつける材料になっている。③活動資金はアンテナを張って補助金をうまく活動に活かしている。沖縄の自治会は地縁・血縁がまだ残っている。そのなかで地域の公民館は、人がつながっていくポイントになっている。情報を欲しい人にどう届けられるかが課題である。

２つの発表は、家庭教育支援に大きな役割を果たした活動となっている。地域の異年齢の子どもが世代を越えて共通の体験活動を地域の施設で実施しているのが重要なポイントになっている。共通の体験をすることによってつながっていき、同じ感情をもって最終的には連帯感が育まれる。

鳴水の発表で同じ体験をしていったとき、参加された方の発言で、この地域で生まれてよかった、子育てしてよかったと地域の愛着やこだわりが芽生えることを学んだ。

普天間は情報を張り巡らし、助成金を自分たちの活動に活かしている。

ネットワークを広げる・活動を活発化させるためには、①計画性②継続性③発展性を意識しながら活動を展開していくことと、新たに参加できない人の掘り起こしを地域の事情をあわせながら利用促進する案を考えていく。

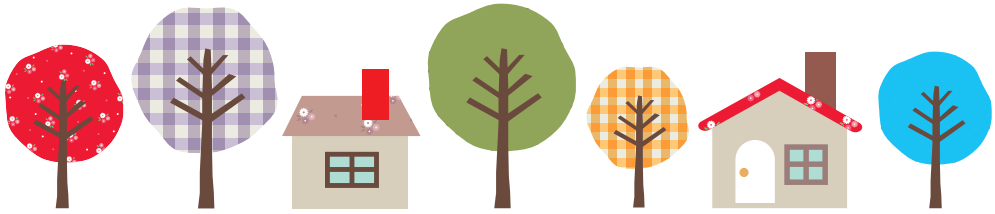
情報発信では、広報誌を含めて必要な人に必要な情報を提供していく。外部の機関や団体とのつながりを広範囲で自分たちのコミュニティにつながらせていくことが重要であり、職員には企画や立案の能力とコーディネートの必要性、そして実施後のふり返りをもとに次の活動へつなげていくことが求められている。

情報収集では、地域で子育て中の方や高齢者の様々な悩み等の情報を収集する力が求められている。まちの課題や子育ての課題をキャッチする力をつけるには、ネットワークの力や他団体とのつながりをつくっていくことが必要である。

活動資金については全国規模で様々な助成金がある。それを自分たちの活動に活かしているところもあるので、ネットを通して情報を収集する力が求められている。

鳴水市民センターに関わってくれる人はコミュニティに参加している意識を育みながら活動を展開している。スタッフが楽しいと参加者も楽しい。それが次の活動へとつながっていく。今後はどうつくり変えていくかが大きな課題である。

街中と過疎という諸事情がある。限られた資源や予算でできることできないことを整理していかないと継続性に無理がでてくる。人が変わればできないのではなく、３年・５年と大きな方向性を確認しながら議論し整理することで、自分たちの地域にあった方法で家庭教育の支援をつなげていってほしい。



○第３分科会　「高齢化社会への対応」

会場：福岡国際会議場　501 会議室

討議のテーマ

高齢化社会における課題解決に取り組む公民館活動の在り方

討議の柱

①高齢者の社会参加を促進する公民館活動の在り方について
②地域福祉等の推進に向けた公民館活動の在り方について

発表者

	鹿児島県鹿児島市喜入公民館　主査	牧之瀬　陽　一
	糸島市立福吉公民館　館長	森　田　季　久

助言者

	鹿児島国際大学　福祉社会学部　教授	高　橋　信　行

・司　会　者	福岡教育事務所　主任社会教育主事	重　冨　泰　敏
・記　録　者	福岡教育事務所　社会教育主事	大　谷　俊　浩
	福岡教育事務所　社会教育主事	香　月　伸　公
・運営責任者	宇美町教育委員会　社会教育課　主査	井　川　洋　志
・会場責任者	宗像市市民協働・環境部　コミュニティ・協働推進課　政策推進係 主事	福　島　　樹
・受付責任者	福津市中央公民館　係長	大　石　直　子

Ⅱ 発表要旨

発表 1 「高齢者が「きがるにつどい、いきいき学べる」公民館運営の在り方 ～公民館講座・自主学習グループ活動支援を通して～」

鹿児島県鹿児島市喜入公民館　主査　**牧之瀬　陽　一**

（1） 活動の内容

・高齢者対象の講座を４講座開設しているが、中でも特に人気が高い講座がインターネット体験である。
・事前に高齢者のニーズ調査を行い、要望に対応した講座を近くの公民館で行う移動講座を開設している。

（2） 成果・課題

・市民のニーズを的確にとらえ、そのニーズに応えられるよう努力することによって、自主的に学習をしたり、講座生同士で交流を持ったりする姿が見られた。
・後継者となるリーダーを計画的に育成したり、関係機関との連携を強化したりしていく必要がある。

発表 2 「高齢者が安心して暮らせるまちづくり ～校区コミュニティバスの取組～」

糸島市立福吉公民館　館長　**森　田　季　久**

（1） 活動の内容

・福吉校区では、高齢者対策が喫緊の課題であり、課題に対応するために住民アンケートを行った。アンケートの結果、市本庁や買い物に行く交通手段がなく困っているという高齢者の声が多数あった。そこで、自主運行バス検討委員会を立ち上げ、運転手等をボランティアとして募り、週３日の運行を行っている。

（2） 成果・課題

・利用者の声として、日頃会えない人に会える友人が増えるなどの声が多く寄せられている。また、運転ボランティアからは、とてもやりがいがあり、無理なく続けられる素晴らしい取り組みだという声が寄せられた。
・利用者が増えるにしたがって、運営上（定員がオーバーする、運転ボランティアが高齢化している、予算確保等）の課題が生まれてきている。

Ⅲ 質疑応答

1.〔発表１について〕

Q：講座がマンネリ化しないようにするためにどのような対応をされているのか？（長崎県）

A：講座後に毎回アンケートを実施し、その結果をもとに講座を５つずつ交代しながら開設するようにしている。（発表者）

Q：地域公民館と校区公民館の役割分担はどのようにしているか？（福岡市）

A：地域公民館は市が運営しており、校区公民館への指導・助言を行っている。（発表者）

Q：パソコンやネット環境は公民館に準備されているのか？（福岡県）

A：パソコンは16台あり、すべてネット回線が利用できる状態である。（発表者）

Q：高齢化社会への対応として、敬老会に対してどのような工夫を行っているのか？（宮崎県）

A：保健センター等の関係施設との連携を図り、高齢者への積極的な働きかけを行っている。（発表者）

2.〔発表２について〕

Q：利用者の運賃や事故に対する保障はどうなっているか？（長崎県）

A：運賃は無料、募金箱に志を入れる方もおられる。運転ボランティアに対する研修会を開き、安全運転に心がけてもらっている。（発表者）

Q：市が負担している以外にかかる経費はどの程度か？（長崎県）

A：バスの車両代、維持費、保険料等は市が負担し、運転手の手当は公民館で負担している。（発表者）

Q：一日の走行距離と定員オーバーへの対応は？（福岡県）

A：片道15Km～30Km、１日２往復で対応している。（発表者）

Q：バスは公民館までの運行をしているか？また、ゴミ出し等の活動は行っているか？（長崎県）

A：買い物や市役所など日常利用の範囲で運航している。ゴミ出し等の補助は行っていないが、見守り隊を組織してニーズに対応している。（発表者）

Ⅲ 研究討議

1　討議の柱①について

・高齢者を対象としたセンター講座を開設している。広報の仕方として、余ったはがきなどを利用し、よく講座に参加される方に暑中見舞いを兼ねて講座のお知らせをお送りしている。このはがきのやり取りが高齢者の喜びにつながっている。また、センターが、高齢者の遊び場としての機能を果たすべきだと考えている。（北九州市）
・中央公民館、校区公民館もあるが、遠くて利用できない高齢者の為に、空き家を利用した借家自治会を自治会主体で運営している。遠方の公民館が利用できない高齢者の方の利用が増えてきている。今後は、周知の仕方を工夫しなければならないと考えている。（宮崎県）
・過疎化が進み、地域の課題に対して、地域住民だけでは対応できない状況がある。そのため、棚田のオーナーや竹林オーナーを募集するなど他地域から人を呼ぶ工夫を行っている。（鹿児島県）
・高齢者いきいき元気塾を全公民館で実施している。少ない男性塾生を増やすために、高齢男性をターゲットにした講座を開設している。（鹿児島県）

2　討議の柱②について

・福祉課題に対応するため、70歳以上の高齢者と60～70歳までの高齢者とを区切って別団体を組織し、まだまだ元気な60代の方々に、実働部隊として協力してもらっている。（沖縄県）
・地域で、独居老人の見守りを行っている。見守り隊を組織するために、地域の運動会に参加賞を設けたり、公民館で焼肉パーティーを開いたりして参加者を増やし、見守り隊への参加・協力を仰ぐようにしている。（宮崎県）
・高齢化率が１割という若い地域なので、高齢者の方々に子育てのアドバイザーとして活躍していただけるよう、若い世代と高齢者との世代を超えたつながりを作る工夫を行っている。（宮崎県）
・異世代間交流の仕組みづくりを公民館と学校との連携で行っている。活動やボランティアにかかる経費を市に頼らない長く続けられるシステム作りを行っていかなければならないと考えている。（佐賀県）

Ⅳ まとめ（指導助言）

1　発表１について

・住民のニーズをしっかりと調査し、ニーズに応える講座を開設していることが素晴らしい。
・福祉の視点から見れば、こちらから、高齢者のもとに出向くアウトリーチの講座というサービスは大変参考になる。今後増えるであろうアウトリーチの場に参加できない高齢者に対しては、高齢者各家庭へ出向き、個別の講座を行うことができるものを考えていく必要がある。
・今後はさらに、地域住民の新しい要望を取り入れる情報収集の仕組みを考えていく必要がある。

2　発表２について

・地域の高齢者の実態をしっかりと把握した上で、高齢者のニーズにぴったりと合ったコミュニティバスの運行を行っていることが大変すばらしい。
・今後さらに取組を充実させていく上で、地域住民のニーズを把握するためのアンケート調査を定期的に実施し、そのニーズに応えられる取組を事業化していく必要がある。

3　全体を通して

・地域住民から集約したニーズとそれに対応するために活用できる資源とをしっかりと分析し、公民館が住民のニーズと社会資源とを結びつけるコーディネーターとしての働きを行っていくことが大切である。
・事業に対するプロセス（過程）を大切にし、その成果や課題、ノウハウを次の事業に生かしていくシステム作りが大切である。
・今後の高度高齢化に対応していくために、次の２点のことを大切にしていく必要がある。１点目は、60代の元気な高齢者を70以上の高齢者を支える世代としてとらえ、そのマンパワーを生かしていく仕組みを作っていく必要があるということ。２点目は、高齢者にとって、「近いところ」からさらに「身近なところ」へと公民館側からのアウトリーチの幅を広げていく必要がある。場合によっては、各個人の家庭を単位としたアウトリーチも考えていくことも必要であるということ。今後は、これら大きく２点を意識しておく必要があると思われる。

○第４分科会　「人権教育」

会場：福岡国際会議場　411・412

討議のテーマ

人権を尊重し、明るい社会づくりに向けた公民館活動の在り方

討議の柱

①人権感覚を高め、明るい地域づくりをめざす公民館活動の在り方について
②共生社会の実現をめざし、人権教育を推進する公民館活動の在り方について

発表者

佐賀県佐賀市立久保田公民館　公民館主事 （佐賀市役所久保田出張所教育課　生涯学習係長）	吉　田　浩　子
福岡市青葉公民館　館長	山　本　佑　治

助言者

佐賀県多久市中央公民館　館長 （佐賀県公民館連合会　副会長）	川内丸　信　吾

・司　会　者	北九州教育事務所　主任社会教育主事	松　井　　淳
・記　録　者	福岡市東区役所地域支援課　地域支援係長	上　野　真由美
	福岡市東区役所地域支援課　地域支援係長	内　野　保　基
・運営責任者	福岡市市民局　公民館調整課　運営係長	日　野　雅　彦
・会場責任者	福岡市市民局　公民館調整課　管理係長	守　田　宣　昭
・受付責任者	福岡市市民局　公民館調整課　事務吏員	村　上　由　起

Ⅱ 発表要旨

発表 1 「共に支え合い、共に生きる「共生社会の実現」に向けて ～学びから行動へ～」

佐賀県佐賀市立久保田公民館　公民館主事　**吉　田　浩　子**

・特別な活動をすることが人権教育や啓発ではない。
・すべての公民館活動、地域の生活の中に人権の教育や啓発があり、培った成果が地域の財産になる。
・公民館活動の基底は、人権尊重の精神である。
・公民館のゴーヤのグリーンカーテンは、日よけだけでなく地域の人が立ち止り人の輪を広げてくれる役割も担っている。ベースに人権の精神があれば、ゴーヤでも人々の結びつきを強くし新たなる結びつきを作るのである。

発表 2 「障がい児（者）と共に　青葉校区の人権の取り組み」

福岡市東区青葉公民館 館長　**山　本　佑　治**

・子どもの登下校の見守り、夜間パトロールを毎日行う安心・安全に力を入れている地域である。
・地域ボランティアの方に障がい児（者）の買い物学習支援、販売学習支援、接客学習支援に協力し見守りをしていただいている。
・人権学習への参加者は固定しがちだが、スポーツ関係者など広く呼びかけを行うことで多くの方に参加していただいているところである。
・公民館ができることは限りがあるため、どのようにして地域の方の協力を得られるかを考え工夫し実施していかなければならない。

Ⅲ 質疑応答

1.〔発表１について〕

Q：出前講座の組み立て方や行政や学校との連携について（福岡県・大分県）

A：指導員の先生を中心にメンバーを組んでおり、出前講座の仕切りはすべて任せている。学校からは校長や同和教育担当者からいじめ問題など学校現場の情報を提供してもらっている。（発表者）

Q：中学生の伝統芸能「浮立」についてと継承はどのようにしているのか（大分県）

A：秋に香椎神社に地区持ち回りで笛や太鼓を持って奉納する行事である。中学生は総合の時間を使って地域の方々が教えに出向いていただいている。また卒業後、地域の浮立の会のメンバーになっている子どもたちもいる。（発表者）

Q：これまの同和問題講座において少し踏み込んだ内容の事例があれば教えていただきたい。（熊本県）

A：被差別部落の講座を過去数回実施した実績がある。地区によって出前講座の内容は異なりそこの地区にあった講座内容にしている。また、毎年フィールドワークを実施しており、昨年は「ハンセン病」を学ぶため熊本県菊池市を訪問する等継続した活動を続けている。

2.〔発表２について〕

Q：障がい者と健常者の交流の場を地域にまで広げられた経緯や取組について（大分県）

A：福岡市で障がいを持つ母親がトイレの中で自分の子供を殺したという悲惨な事件が起こりそのことがきっかけとなり地域にまで広がったものである。
フレンドホームと公民館の公的機関を基盤に卒業した子どもたちと障がいを持つ子どもたちからの交流からはじめ、その後地域の子どもたちや健常な人に広げて今進んでいるところである。（発表者）

Q：障がい者施設が近くにある公民館のバリアフリー整備の予算について（熊本県）

A：予算の要望はしていないが、公民館にはすでにスロープ、エレベーターが備わっている。

Ⅲ 研究討議（全体的に）

（質疑・応答）

Q：９月より放課後こども教室を始める予定で、障がいのある子どもたちも今年から受け入れしたいが設備もスタッフもそろってない状況の下どのように受け入れを行えばよいかアドバイスをいただきたい。（長崎県）

Ａ：青葉公民館が特別に障がい者が利用しやすい公民館として施設整備されているわけではなくその他の公民館と同様の施設である。しかし、福岡市公民館のほとんどはバリアフリー仕様となっている。その中で、障がいを持った方も利用しやすいように間仕切りを外すなどの工夫は行っている。（発表者）

Q：様々な障がい者に対する対応はどのようにしているのか。（長崎県）

Ａ：ボランティア養成講座において様々な障がいについての学習を行っているため、皆さんの理解がある。ボランティア養成講座受講者は100人以上となっており、理解者も多く受け入れやすい地域となっている。

（各地区での実践）

・人権学習講座においては、座学のみではなく、参加者も楽しめるよう歌や演劇の取り入れや参加者の意見を直接聞くなど関心を高める工夫をしている。（佐賀県）

（感想）

・久保田公民館の人権コンサートは、人権に関して大変造詣の深い勝田先生プロデュースのもと実施され、最高の場づくりがなされ、参加しているさまざまな立場の420名もの方々が音楽を通して一体となっており素晴らしいコンサートとなっている。また、青葉公民館は、子どもと子どもの交流から親へと繋げていく仕掛けづくりを上手くなされており、今後参考にさせていただきたいと思った。（佐賀県）

Ⅳ まとめ（指導助言）

「人権教育のための国連活動10年計画」の取組みを改めてみると「学習するものの日常生活に関連づけた方法で行われる、また現実問題として捉えるための方法及び手段について学習する者を参加させることを目指すもの」と書いてある。つまり、今日発表された久保田公民館と青葉公民館がまさにそれを実践しているのである。特別のことではないという意識のもとでやられているということである。人権教育の基本的目標は何かというと人権感覚を高めることである。人権感覚とは「自分の大切さと共に他人の大切さを認めること」である。特に他人の大切さを認めるという方法として公民館は事業を通じ活動をしているのだ。公民館の役割は色々あるが、特に地域の特色を活かし活動を行うこと、これは文科省の指針に書いてある。青葉公民館の場合は、公民館の周辺施設、東福岡特別支援学校や養育センター、小・中学校等と一体となり、まさに地域の特色を活かした活動がなされている。それから２館に共通することだが、地域に飛び出す公民館である。待っていても向こうからは絶対やってこないのだ。やはり現実をあるべき姿に近づける努力をしないといけないのである。

公民館が事業をすることで届けたい先は市民の方である。だが、わかりやすい事業をしてもなかなかそこまで届かないのだ。しかし児童相談所や法務局、警察や法曹関係者など実際に人権侵害の個々の事例に関わっている公的機関の専門家を講師に迎え、具体的な人権侵害のお話しをしていただくと参加する方は姿勢を正ししっかり聞くようになるのである。例えば生々しい殺人事件等をテーマとして講演をしていただくと50名ほどの人がすぐに集まるのだ。知識を伝達するだけではない、やはり現場を積んでいる人の発言や体験というのは相当重みがあるのだ。人権を知ることで、当然他人を思いやり自分を尊重する気持ちも生まれ、逆に人権侵害を防ぐ力にもなるのである。

今日の論調は、人権とはということだが、結果的に人権侵害に至らないようにすることがとても大切である。人権を学習するということは、人権侵害を防止する力にもなるということである。

○第５分科会　「自治公民館活動」

会場：福岡国際会議場　201・202・203・204

討議のテーマ

豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方

討議の柱

①住民の生きがいづくりを促進するための講座とその運営の在り方について
②自治意識・連帯感を高めるための組織・運営の在り方について

発表者

長崎県波佐見町田ノ頭郷自治公民館　元総務部長	田中康彦
豊前市前川公民館	中本勝子

助言者

長崎県教育庁生涯学習課社会教育推進班　係長	椋本博志

・司会者	京築教育事務所　主任社会教育主事	猪本満昭
・記録者	京築教育事務所　社会教育主事補	井上育子
	北九州教育事務所　社会教育主事	村井政文
・運営責任者	行橋市教育委員会　生涯学習課　係長	村田貴志
・会場責任者	豊前市教育委員会　教育課　課長補佐	横川　要
・受付責任者	上毛町教育委員会　教務課　社会教育係長	村上英之

Ⅱ 発表要旨

発表 1 「心身ともに健康で豊かな暮らしを目指して」
～郷民「１サークル・１クラブ」参加活動の推進と郷民講座の活性化を通して～

長崎県波佐見町田ノ頭郷自治公民館　元総務部長　**田　中　康　彦**

（1）活動の内容

・自治公民館が主体となり高齢者を支えるという趣旨で「郷民１サークル・１クラブ参加運動」を推進しており、スポーツ系クラブ、文化系サークルに延べ200名が参加している。
・郷民講座として婦人会活動を中心として「田ノ頭の史跡巡り」「男の料理教室」等を展開している。
・PTA、老人会、婦人会、子ども会等、地域住民が一体となり、コスモスロード作りを実施している。草刈り、除草剤まき、種まき、草ぬき、種取り、片付けの活動を行っている。

（2）成果

・ 自治公民館が主体となって企画することにより、様々な特色ある活動を展開することができた。
・郷民が積極的に参加するようになり、充実した生活を送ることができるようになった。
・郷民の連帯感やコミュニティ活動の活性化が図られた。

（3）課題

・さらに、核家族化による高齢者世帯の増加に対応できる地域づくりを進めていく必要がある。
・地域住民との対話を通して、地域住民のニーズを把握する必要がある。

発表 2 「自治公民館を中心とした地域づくり」
～きずな深まるボランティア活動～

豊前市前川公民館　**中　本　勝　子**

（1）活動の内容

・地域の行事を活用し、公民館の活動を展開している。
・中心となる行事は八屋祇園、敬老会、餅つき大会の３つである。
・昭和の会（昭和生まれ）、若獅子会（20歳前後）等が構成されており、各年代の人が活動を意欲的に行っている。
・運営委員会を構成し、公民館行事の展開を行っている。

（2）成果

・公民館が地域の憩いの場となり、地域に一体感を生んでいる。
・行事を中心として、地域の人々が集い、地域コミュニティを形成している。

（3）課題

・少子高齢化がすすみ、若い人を中心に過疎化も進んでおり、活動の中心となる人が少なくなっているので、中心となる人の育成が必要である。
・財源の確保が厳しい面があるので、今後は、新たな利用者の確保に努めていきたい。

Ⅲ 質疑応答

1.〔発表１について〕

Q：１人１つのサークル参加なのか。他のサークルには参加できるのか。（福岡県）

A：他のサークルにも参加することができる。（発表者）

Q：参加人数が延べ200名ということだが、総数は何人ぐらいか。（福岡県）

A：正確な人数はわからないが、平均１人２サークル程度なので、100名ぐらいだと思う。（発表者）

Q：地区の自治会の加入率を教えてほしい。

A：企業のアパート等が増えてきており、約95％ぐらいである。（発表者）

Q：リーダー育成について取り組んでいることを教えてほしい。（宮崎県）

A：特に取り組んでいることはない。先輩が仲間や後輩を引き連れてやっている。（発表者）

Q：若い方の参加率はどうなっているのか。（鹿児島県）

A：メインは70歳以上の方である。現在、60歳以上の方を参加させようと、チラシ、口コミ、個人勧誘などを行っている。（発表者）

Q：各サークルへの助成金はどうなっているのか教えてほしい。（熊本県）

A：各サークルで違う。文化系は月１回３人以上という条件で1000円、スポーツ系は月１回以上という条件で1000円、ゴルフ・山の会については3000円となっている。（発表者）

2.〔発表２について〕

Q：公民館の使用料について教えてほしい。（宮崎県）

A：地元の人は無料だが、冷暖房費は各負担となっている。（発表者）

Q：区＝公民館活動ととらえているのか。また、区からいくらお金が出ているのか。

A：公民館の会計がある。類似公民館補助金として１万5000円もらっている。（発表者）

Q：市からの補助金は１万5000円ということだが、その他の収入について教えてほしい（鹿児島）

A：外部使用料、葬儀使用料、市の補助金で約60万ぐらいである。（発表者）

Q：いきいきサロンの男性の参加率はどのくらいか。

A：男性の参加率は少なく、２～３名程度である。（発表者）

Ⅲ 研究討議

1　討議の柱①について

・予算の資金源について。市の補助金はあるのか田ノ頭郷の方に聞きたい。（佐賀県）
・自治会の予算は550万円であり、この中から公民館運営費として毎年70万渡している。波佐見町からの公民館活動に関する資金援助はない。（発表者）
・田ノ頭郷の取組を聞いて、自治公民館での活動が多くて驚いた。なぜこんなに公民館で多くの活動ができるのか、熱血館長がいたのか。（熊本県）
・サークルそのものは、元々あったものであり、自治公民館として支援していくべきではと思い始めた。新しい事をしたのではなく、元々あったものをまとめただけである。（発表者）
・年間3000円会費、年間30万もらってすすめている。内容は、健康づくりや地域にある文化財施設の見学、地域の福祉施設でボランティア活動などで、お互いに活動を通して仲間づくりをしている。（宮崎県）
・講座にたくさん参加される話は多かったが、逆に参加をしない人、例えば、足が悪くて公民館に行けない人や、外に出るのがおっくうになっている人などをどうやったら、参加できるのかご指導をいただきたい。（熊本県）
・月に１回、地域の縁側サロンを行っている。公民館を人が集まりやすい環境にした。公民館のトイレのバリアフリー化や車いすの設置を行っている。（熊本県）
・地形的にアップダウンが多い地域で、車を持っていない人は大変である。そこで、送迎が必要かどうかアンケートをとって、青年会や婦人会が送迎を行うようにした。（沖縄県）
・「短歌や俳句」の通信講座を行っている。公民館まで足が不自由で来られない方は、手紙等で俳句などを公民館に送ってもらう。（福岡市）
・名刺サイズの紙切れに、場所と日時を書いて、参加しませんかと、一人一人に渡す。会を重ねる内に、参加者数は増え、今は100人以上の参加になっている。名刺サイズのカードであれば、財布に入れたり、カレンダーに貼ったりして忘れない。（長崎県）

2　討議の柱②について

・自治意識や連帯感を高める運営に困っている。各自治会の活動が、役員のなり手がいない等で、組織力が落ちている。また、自治会に加入しているメリットがないと感じている人も多い。いい取組があれば教えてほしい。（鹿児島県）
・地域に団地があり、いろいろな地域から人が入ってきている。ほとんどが70代で、地域の会に出てくれない。職場の定年制がどんどん伸びており、70歳になる人は「しばらくは休ませてくれ」と行って参加したがらない。それから、リーダーがいない。これからは、リーダー育成が大切ではないか。どんな風にリーダーを作っていくかを考えてほしい。（熊本県）
・宮崎市は、アメリカのローホーフ市と姉妹都市である。アメリカはボランティア登録が中心であり、日本もアメリカのような制度を行うことはできないか。（宮崎県）

・ある自治体が、夏祭りを大学の自治会に８割ぐらい任せた。２年目からは黒字となった。大学などの団体が近くにあれば、そこと連携してもよいのではないか。（熊本県）
・近くに国際医療福祉大学があるので、協力して夏祭りをしており、大学生や地域からバザーを出している。また、大学から補助金ももらえる。（大川市）

・私の地域は、限界集落もある。県立図書館や市立図書館と連携して「家読（うちどく）」をしている。図書館から本を借りて、図書館に設置した。地区の絆を作っている。（佐賀県）
・日田市では、公民館を一般財団法人公民館事業団で管理しており、運営資金を日田市からもらっている。館長は一般公募、任期は３年であり、３年経っても続けたかったら試験を受けるようなシステムである。（大分県）
・公民館事業に参加してくれない人がいるため、子どもを祭りに巻き込むことから始めた。子どもクラブの役員さんに協力を要請し、子どもが参加したら親も来るようになった。また、地域内の清掃にも巻き込むために、参加したら1000円渡し、参加しなかったら1000円を罰金としてもらっている。（佐賀県）
・元中学校教員ということもあり、区の通信を作成し配っている。行事の参加者の感想などを載せている。共通の話題を区のみんなで共有したい。（福岡県）

Ⅳ まとめ（指導助言）

１　発表１について

波佐見町の取組は１サークル１クラブで活動がすすんでおり、交流することを通して、地域の元気をつくっている。また、文化サークルでは「ひなたぼっこの会」や「しだれ桜の会」など、地域貢献型のサークル活動をすることで、自分が楽しむだけではなく、地域の環境づくりにいそしもうと考えているのが素晴らしい。さらに、史跡めぐりなど「学ぶ」部分も位置付けられている。コスモスづくりは、子どもから高齢者まで活動に参加することができ、自分たちできれいにしているんだと生きがいを感じることのできる活動である。

２　発表２について

豊前市の取組は、新しく建設された公民館が「自分の家」として、地域住民の「心のオアシス」となっている。地域の人が公民館をとても大切にしていることが発表から分かった。運営委員会があり、昭和会（60代を中心とした会）、若獅子会（15歳～25歳ぐらいまでの男女）など、会で決まったことを公民館で取り組んでいることが分かった。八屋祇園であれば、伝統の継承でありながら、祭りを中心としたふれあいの場となっており、敬老会は、１年がかりでプレゼントを用意したり、子ども達の呼びかけがあったり各種団体の絆を深めながら、高齢者を中心としたふれあいの場になっている。ふれあいの場づくりが上手だと感じた。地域でナナメの関係をつくっていくことが大事だと感じた。まずは大人を地域に引っ張り出すことから始めてほしい。

３　全体を通して

キーワードは３つである。１つ目のキーワードは「交流」である。年中行事や地域行事の活用を行い、「交流機会の創出」を図り、子どもを核とした行事・講座を展開することで「世代間の交流」を図ることが大切である。２つ目のキーワードは、「ふるさと心」である。「この地域に生まれてよかった」「ここに住んでよかった」という自分の地域に誇りが持てる活動を行っていくことが大切である。３つ目のキーワードは、「自助・共助・公助」である。自分や家族でできることには限りがある。これからは、地域で助け合っていくこと、お互いに手をとりあってがんばっていくことが大事であり、自治公民館の活動が地域を支えていく活動になっていく。活動は工夫次第である。今からは共助の時代であり、みなさんの活動が地域の方を元気にする。

○第６分科会　「青少年教育」

会場：福岡国際会議場　409・410

討議のテーマ

青少年の健全育成と体験活動を推進する公民館活動の在り方

討議の柱

①地域で子どもを見守り、育てる公民館活動の在り方について
②体験活動、ボランティア活動等を推進する公民館活動の在り方について

発表者

大分県由布市教育委員会社会教育課　生涯学習係長	長谷川　美由紀
大刀洗町教育委員会生涯学習課　社会教育指導員	宮　崎　　誠

助言者

大分大学高等教育開発センター　准教授	岡　田　正　彦

・司　会　者	北筑後教育事務所　主任社会教育主事	中　原　　聡
・記　録　者	北筑後教育事務所　社会教育主事	岩　田　史　江
	北筑後教育事務所　社会教育主事	石　橋　　篤
・運営責任者	大刀洗町教育委員会生涯学習課　生涯学習係長	矢　野　智　行
・会場責任者	大刀洗町教育委員会生涯学習課　課長	福　永　康　雄
・受付責任者	大刀洗町教育委員会生涯学習課　地域活動指導員	弥　永　理恵子

Ⅱ 発表要旨

発表 1 「由布市青少年教育の取り組みについて」

大分県由布市教育委員会社会教育課　生涯学習係長　**長谷川　美由紀**

（1）各公民館における様々な取組

〇湯布院公民館

・中学生対象ちょぼらクラブや高校生対象リーダースクールにおいて、中高生が自分たちの力で実践していく力を育てている。

・お祭りで出店することで、活動費を作っている。自分たちでできることを考え、募金活動も行っている。（ちょぼら）

・小学生のキャンプでのレクリエーションの指導

YY チャレンジで、高校生が中心となり、イベントの企画・運営・実施を行っている。（リーダー）

〇中央公民館

生活体験スクールにより協力する心を、わんぱくウォークでは自分の体力を知り、協調性を養い、地域の人や異年齢とのつながりを深めること等を通し、生きる力を育てている。

（2）VTR による取り組みの説明

活動の実際の様子から子ども達の生き生きして活動する姿、家庭でも実践できる活動内容、活動に関わる・支える地域の人たちの姿、つながる姿も見えた。

ジュニアリーダー養成事業では、子どもたちの主体的な取り組みとなっている。

（3）評価と成果

〇中高生の姿が年少者の憧れ、目標となっている。

〇保護者の大変さを知り、感謝の心が生まれた。

〇「生きる力の測定調査」から、子どもたちの自己肯定感（自分が好き）が事前調査に比べ向上した。（わんぱくウォークにおいて）

（4）課題

今後の方向性

大人になって急に町づくりの意識ができない。

大人になって地域づくりにではなく、子供のころから地域との関わりを意識できる人材を育てる必要がある。地域づくりの種は小学生は種まき期、中学生は発芽期、高校生は 開花期である。しかし、視野が広がる中高生期が空白期になっている。様々な活動により 成長し、花が開く。小学生からの地道な取り組みが大切。中高生をいかに活動に巻き込む取り組みができるか。

いかに花を育て花を咲かせるか、彼らの活躍の場を。

社会教育においては、将来のビジョンを明確にし、１年１年の取り組みを具体化することで、効果が目に見える形になっていく。→社会教育の中長期計画の必要性。

発表２　「子どもチャレンジ教室の取り組み」

大刀洗町教育委員会生涯学習課　社会教育指導員　宮　崎　　誠

（１）事業の内容

中学校で出会う町内の異なる小学校児童の交流を活動のポイントにしている。プログラム作成は、異校区・異年齢の子ども達の交流を通した自立・自尊・協力し合う心の育成、地域の方々や町内や他の市町村関係機関・団体との連携・協力、町の再発見や体験活動の重視等を視点とした。従来の会員参加ではなく、何時でも・誰でも参加できるように自由参加へ移行した。平成４年からこのチャレンジ教室はスタートし、平成７年からは料理体験教室もスタートした。

24年度は、長崎県の無人島で２泊３日のチャレンジキャンプを行った。島の方との交流や民泊体験ができる貴重な体験ができた。平成25年度も少年チャレンジキャンプと名称を変え、より充実したものになった。小学校区で行っているチャレンジ教室やアンビシャス広場で体験できないような活動を仕組む。

・ソバの種まき～ソバ打ち体験活動
・大刀洗町の歴史探訪フィールドワーク
・チャレンジキャンプ（長崎県五島）

（２）評価・成果

○小学校の異年齢の子どもたちが集まるコミュニケーションの場を作ることができ、また４つの小学校の子どもたちの交流が深まった。
○子どもの居場所作りとして多様な活動を仕組み、その活動を通して一定の成果があった。

（３）課題

○ボランティアの参加が少ない。ボランティアの募集方法を検討する余地がある。
○参加人数が減少している。アンビシャス広場等や各校区のチャレンジ教室の活動が充実していることも要因かもしれない。活動内容のマンネリ化や地域活動の日程・内容の調整等が必要である。
○アンケートでの子ども達のニーズの把握や４校区ではできない活動内容の模索が必要である。
○中学生等のジュニアリーダーの育成も進めていく予定である。
○人材発掘のための情報収集や発信。

Ⅲ 質疑応答

1.〔発表1について〕

Q：わんぱくウォークのポイントはどうなっているのか。（長崎県）

A：それぞれのポイントで地域の方に関わっていただいている。（発表者）

Q：子どもの活動が重視されているが、他の青少年教育との整合性はどうなっているのか。高齢者・乳幼児等を対象とした他の活動は行っていないのか。（福岡市）

A：高齢者を対象とした講座など、各公民館で様々な世代・年齢層に応じた取り組みを行っている。しかし、市町村合併により人が集まりにくくなっている。３地区の内２地区でマラソン大会等を行っている。高齢者事業はそれぞれの公民館で行っている。とにかく合併で町が集まる会議が持ちにくい。（発表者）

2.〔発表２について〕

Q：活動の費用はどうしているのか。参加費や町からの助成費はあるのか？（北九州市）

A：初回に300円の会費をとり、また材料代（100円程度）をその都度集める。少年チャレンジキャンプ総額で町からの助成金を含め100万かかった。参加費１万。その他の活動は、高額にならないような講師や内容で行っている。町からの助成金と参加費でできる内容にしている。（発表者）

Q：アンビシャス広場は校区対象だが、主催と対象学年、登録制なのか。（大分県）

A：本郷と大堰に広場がある。大堰は県の補助なしの自主運営。保護者や地域の方々で自主的に運営している。対象は１～６年。校区センターで行っている。大堰小は子供の人数が少なく全児童が会員で、本郷は希望者が会員となっている。（発表者）

Q：H16から大野城市でアンビをしているが助成金が減っている。大野城市はコミュニティ型だが、学校型の場合運営が難しいのでは、今の助成金で運営できるのか。（福岡県）

A：会計は自分の担当でないので答えられない。大堰・本郷との　町からの財源も活用しながら活動を行っている。（発表者）

Ⅲ 研究討議

1　討議の柱①，②について

・27の公民館中14の公民館、入所３年未満を対象にインターンシップで年間40時間、市の職員が派遣され公民館の取り組みが勉強になる・学ぶことが多いと好評である。（福岡県）

・（校区公民館）昼間に子どもとかかわりのある大人（青年）がほとんどいない。仕事等で昼間子どもに関わる人がいない。唯一関わることができるのは老人クラブである。老人クラブがシルバー保安官として、子どもの登下校を見守っている。老人クラブと子どもの関係がうまくいっている。登下校で会話ができる、知り合える、またおじいちゃんたちが見守ってくれていることに気付く。このことが青少年育成につながる。公民館の立場から大変感謝している。

・健全育成のための活動がどうしてもイベントになりがちである。参加者がごく一部の同じ人である。参加しない子どもや大人がどうすれば足を運ぶかが課題である。（出てくる人は必要ない人、本当に来てもらいたい人が来ない）青少年育成の意識の低い人の意識を高め、日常的に取り組める、そして故郷に目を向けていけるような方策が必要。スマホに熱中する子どもたち、DV 等公民館でどうすればいいのか、みなさんのご意見をお聞きしたい。自分の子どもも携帯に影響されている。（福岡県）

・20公民館が指定委託で運営されている。通年17～18回以上の事業を展開している。７月のキャンプに20館参加した。４～６年を対象に、農業体験や世代間交流を行っている。32校が18校へ統合された。また「クバラ」（マダガスカルのおにごっこ）を体験するなど、JICA の方々と協力して国際理解の事業を行っている。年間を通して、子どもを育てていくことがねらいである。課題は、小学校で参加した子どもが、中学校になって公民館の支援者になっていくことである。（大分県）

・本公民館活動としては、参加したいものが参加する。補助金を使い地域間交流で島との交流を４年間行った。その後町の補助金を使い６年生が山口県の島で地域間交流ができた。補助金が出なくなってどうするか保護者と協議したところ、子どもたちが行きたいなら続けてほしいとの意見により、一人～２万出すことになったが保護者負担でその活動が続いている。また、公民館主事が学校の手を借りずにやろうということになり、市のシニアとジュニアリーダー（４名）により運営し４年間続いている。過去に行った子どもたち（中高生）がリーダーとなり好循環な事業となっている。（佐賀県）

・スマホ等のメディアについての質問があったが、高校生がスマホに夢中になるのをやめさせる方法は難しい。中毒は専門家の処置が必要である。はまる前に止めないといけない。オンラインとオフラインの違いを知ることも必要。はまらないようにする事前の対処が必要。はまりにくい状況を小学校で体験することも大切。コミュニケーションや人とのつながりや、体を動かすことが楽しいと思わせる。その体験の場を与えるのが公民館の役割ではないだろうか。また体験したいと思わせること。（助言者）

・教育は共育。映像の先生はよく知っている。丁寧に教えない。自分でやってみるように促す。子ども達がお客さんになっているプログラムが多い。子ども達がお客さんになりすぎている。何でも準備されている。その１回で終わり、それを次に生かせていない。いいとこどりのお客さんプログラムではなく、継続できる。そして、きついことを繰り返すことも必要ではないか。（助言者）

・19全公民館に社会教育主事が配置されている。昨年佐賀大会で発表した、子どもチャレンジ教育で小学生プランナーを募集し、会議を通しプランを作っていく。（年間８回の会議）大人が考えるとマンネリ化する。子どもたちがやりたいことを考えさせ実行させることで満足感達成感を味わうことができている。平成22年度は夏に山鹿地区で渓谷での活動やハロウィンパーティ、阿蘇のミルク牧場での班行動を実施した。プランナーとしての大変さを経験したことが次の活動に生かされていた。熊本大学サークル「メイクフレンズ」との連携（将来、教員を目指す人たちである。（フレンズの目的は子ども理解））により、個に応じた支援ができ大学との連携がうまくいっている。（熊本県）

発表者への質問

・いろんな地域や人材に協力してもらっている。手助けしている人をどうやって確保しているのか。
・青少年育成以外にもそのつながりが使えているか。（助言者）
・各地域にボランティアバンクの団体が２つある。そこが協力をしてくれる。（発表者）
・学校支援がメインになる。（発表者）
・そこが私の仕事である。町民の中にいろんな特技を持っている方を、自分自身が知らない。どんな人がいるのか足を運んだり情報を集めネットワークを広げることが今後必要ある。（発表者）
・佐賀市の学生ボランティアに声をかけ、事業に協力してもらっている。授業でボランティア等で11ポイントためるという場がある。そこから７名の協力を得ている。（発表者）
・子どもにいきなり考えなさい、工夫しなさいでは無理だ。まず先生・大人が教えてあげること、褒めてあげることが大事ではないか。そこから自分で考え、意欲がでて次の活動につながっていく。ひょうたん作りをやった。難しかったが、ある程度やらせて壁にぶつからせる、教える人がいて自分の生かし方を知ることができた。公民館の文化祭等あったときにいろんな人材を発掘することができる。（福岡県）
・昔、地区の野球部の臨時コーチをしていた。子どもの名前を呼んだ時にアゴで返事をされた。スポーツ選手なら大きな声であいさつ、返事をするのがスポーツ選手であるべきこと。垂水市では「さわやかあいさつ運動」をしている。あいさつ・返事は社会に出たときに役に立つ。大人になって大切である。自分をアピールできるのではないかと考える。今、パトロールや子どもの朝読みを通し、子どもの安全・教育について取り組んでいる。（鹿児島）
・日本の教育方針がここ10年で大きく変わり、ゆとりの時間が減り学力へ方向転換しているようだ。公民館に参加する人が限定されている。学校教育の中でもう一度自然体験などの体験活動をするシステムにしていくべきではないか。昔は、授業中に先生と魚釣りをした。新たな体験は今でも頭の中にある。それがあって次の段階が公民館での活動になるべきではないか。（宮崎県）

Ⅳ まとめ（指導助言）

○由布市

小学生が体験できる場があり、中高生がそれに関わる場がある。中高生大学生は、小学生にとって一緒に活動したい、接したいという対象である。また大学生も子供相手のプログラムに興味がある。縦の長い関係より斜めの近い関係をつなぐのがこれからは大切である。空白の中高生が足を運べるように公民館のアプローチをお願いしたい。大刀洗も由布も、顔が見える関係の町ではないか。その特性を生かして人材を発掘していくとよい。自分で考えて決めることは時間がかかるが、大人は陰で支えじっくり見守ることが大切である。大学生は自分で考え、提案することが苦手。子どものころから考え、自分で責任を持つ体験をし、社会にでることが大切。由布市は継続性が大きい。２世代目に突入。由布市の循環は継続的な取り組みがあったからこそ、公民館に来る子だけを対象に事業をするだけでなく、その事業が何のためにあるのか、どんな成果があるのか長いスパンで見ていく必要がある。一つの事業がほかにつながっていないか見ていくことも大事。大刀洗では、あるものを利用し組合せ事業を展開している。一つの中学に集まる４小学校の児童が、中学前にどんな交流をするのか、そして繰り返し経験することがマンネリ化させない工夫が必要だがプログラムを変えるのも大変、だから子どもたちが企画運営させることが糸口に。計画段階から参加させる、かかわりの度合いが高いほど子どもたちの意識・意欲は高くなる。自分が教えることを組み入れるのもよい。何のためにそのプログラムがあるのか、子どもたちがどう変わっていくか長期的に見ていく必要がある。プログラムに道筋を、公民館のプログラムにつながりを。入り口（青少年教育）は子どもたちでも最終的には大人・高齢者のためになるものに。

直接プログラムを提供する役割と、情報提供をして人や地域をつなぐ・地域に出ていく役割も（地域のプラットフォームの役割）こなすのは大変。ここだけは楽しんでやろうという思いで事業を展開することで、周りも楽しいと感じいろんな人を巻き込むことができるのではないか。

○大刀洗町

様々なものの組合せがあり子どもたちが中学校で出会う前に大切な活動である。初めて会い、打ち解けた体験を繰り返すことも大切である。１～６年が参加。次年もやると２回目でマンネリ化するがプログラム作りも大変である。２回目も飽きさせないもの、かかわりの度合いが高いと楽しいと思える。学習の効果は人に教えると高くなる。何のためにやるのか？効果は？子どもの変容を見ることが公民館とのつながりになる。

○全体で青少年事業ばかりでは問題がある。入り口は子どもで大人から高齢者へ発展させることが必要である。今は学力ばかりに偏っている。社会教育に「強制」はない。参加する人に限界ありと前提し、来る人だけでやってはいけない。人数や満足度だけで見てはだめ。公民館に行くと何かあると思わせることが必要。公民館の役割は何か。今は人もお金も減った。でも、人とのつながりはある。しかし、工夫は必要。仕事をこなすだけでは面白くない。何か一つやる。自分が楽しみながらやることや巻き込むことが大切である。

○第７分科会　「ボランティア活動」

会場：福岡国際会議場　413・414

討議のテーマ

ボランティアや地域貢献活動による地域の活性化を目指した公民館活動の在り方

討議の柱

①地域の課題解決を目指すボランティアや地域貢献活動の在り方について
②地域の人材・資源を生かし、地域を活性化させるための公民館活動の在り方について

発表者

熊本県益城町教育委員会生涯学習課　係長	村　上　康　幸
大牟田市三池地区公民館　館長	鷹　尾　俊　介

助言者

熊本県生涯学習推進センター　審議員	野　尻　絹　子

・司　会　者	南筑後教育事務所　主任社会教育主事	安　達　浩　文
・記　録　者	南筑後教育事務所　社会教育主事	安　達　幸　子
	南筑後教育事務所　社会教育主事	松　延　　聡
・運営責任者	筑後市教育委員会　中央公民館　館長	水　落　龍　彦
・会場責任者	筑後市教育委員会　中央公民館　庶務係長	中　村　敏　和
・受付責任者	筑後市教育委員会　中央公民館　庶務係	弓木野　真　里

Ⅱ 発表要旨

発表 1

「公民館がかかわる子ども事業 ～公民館での学習を学校支援に生かす !!」

熊本県益城郡益城町教育委員会生涯学習課　係長　村　上　康　幸
主査　寺　本　和　寛

平成20年度から益城町では、放課後子ども教室と公民館講座の連携が始まっており、町内の小学校に３名のコーディネーターを配置し、ボランティア登録数は現在400名ほどになっている。

学校支援の特徴として４点あげられる。①学校へのコーディネーター配置②公民館で学んだ知識を学校支援に生かす③ GT ではなく AT ④コーディネーター会議の定期的な実施（…これは、コーディネーターのストレス解消にも必要）である。今後は学校の要望に応じたボランティア養成講座にも取り組んでいきたい。

取組の成果として、子どもたちにはきめ細やかな指導と緊張感により確実に子どもたちに力がついていることを実感している。また、ボランティアの方々にとっても地域の学校や子どもを理解することで生きがいを感じてもらっている。課題として、予算やボランティアの確保、学校・教職員の事業への理解度のさらなる向上があげられる。

発表 2

「子どもの学びを支えるボランティアの育成・支援 ～ミシンの授業支援」

大牟田市三池地区公民館　館長　鷹　尾　俊　介

平成21年度に小学校家庭科のミシン授業支援のためにボランティア養成講座を実施した。その後「布レンズサークル」が結成され、平成 24 年度にはサークル会員の拡充を目的としてミシン授業のボランティア養成講座を改めて実施している。平成24年度は４小学校に15回、延べ33名を派遣している。この際、ボランティアの効果はあったものの、回数が増えたことで講師や学校との調整に担当者の負担が大きいという反省点があがった。本取組の成果としてボランティアの生きがいづくり、活動の場の開発につながった。また、学校側としても学習の効率化が図られ、子どもたちも楽しく学ぶことができた。結果、地区公民館・ボランティアと小学校との信頼関係が構築された。

また、公民館と小学校の職員同士がお互い身近な存在として感じることができるようになっている。今後の課題として、ボランティアとしての心得をボランティア自身にもっと理解してもらう必要がある。また、地区公民館のボランティア養成・支援に対する自己評価が必要である。

Ⅲ 質疑応答

1.〔発表１について〕

Q：学校と地域を結ぶコーディネーター３名の選任方法、また、コーディネーターのストレスという話があったが具体的にどのようなストレスか。（大分県）

A：選任方法は、教育委員会は元教員と社会教育委員の経験者。学校は、補助教諭的な立場の方で以前からその学校に勤めてある方。ストレスは、学校の先生に何の学習を教えるかとか、地元の方との折衝に関するストレス。（発表者）

Q：無報酬なのか。また、学校にあるカリキュラムとの関係は。（鹿児島県）

A：無報酬である。学校の計画（カリキュラム）に基づいて行っている。学校からの要請に対し、要請に応じたボランティアを活用している。（発表者）

Q：ボランティアの管理は、各学校で行っているのか、それとも総括しているのか。また、具体的に要請への流れを教えてほしい。（大分県）

A：各公民館がボランティアを管理している。たとえば人材バンクのような方法でやっている。養成への流れとして、最初は学校のコーディネーターが地域の方につなぐ。例えば昔遊びなら、だれが詳しいとかあたりをつけて公民館長に伝えている。過去の実績などで管理を行い、公民館と学校をつないでいる。（発表者）

Q：公民館の体制はどのようになっているのか。また、生涯学習課との関係は。（福岡県）

A：公民館には館長として益城町の教育長が兼務している。職員も生涯学習課職員が兼務している。常駐ではない。貸出なども教育委員会が行っている。町内に公立公民館は５館、中央と各小学校に１つずつある。（発表者）

2.〔発表２について〕

Q：ボランティアの登録方法や、要請から派遣までの流れは。（福岡県）

A：ボランティアは生涯学習課で登録を行い、公民館ごとの登録はない。まなばん館に登録を行い、冊子を作成する。申請書に基づいてカテゴリー別に記入する。コーディネーターが冊子に基づいて調整し派遣する。（発表者）

Q：三池地区の養成講座は学校支援とつながっているようだが、他の公民館での講座状況はどうなのか。（大分県）

A：事業方針の３つの柱は、７つの公民館すべてで行うことが基本である。他の公民館でも、学校の花壇整備、家庭科の調理実習、総合学習で行う昔遊び的な活動がある。三池地区では、英語講座も行われている。（発表者）

Q：学校支援とすべて結びついているのか。（大分県）

A：証明できるはっきりとしたものはないが、ミシンに限っては、学校からの評判もとても良い。学校との関係もとてもよいから学校支援にもつながっている。（発表者）

Ⅲ 研究討議

1　討議の柱①について

～公民館によるボランティア活動とコーディネーターの役割を中心に～

・館長がコーディネーターとなって、学校支援事業に取り組んでいる。また、ボランティアのネットワーク会議を開いて、多様な要請に対応している。発表のような活動も行っているが、事前の講座をしなくても実践できている。しかし、このような講座をすると、仲間づくりができ、達成感、充実感などがさらに強くなるのではないか。また、学校にも安心感が芽生えて、信頼関係という点でも効果があると思う。（大分県）

・地域デイサービスを行っている。高齢者が集って活動できる場を設けて、一緒に食事をしたり、地域のつながりを深める交流を行ったりしている。その中で、学校からの子どもたちとの交流の場も設けている。（福岡県）

・草刈機とグランドゴルフセットを購入したところ、グランドゴルフをする人たちが除草に参加するようになり、ボランティアが増えた。また、自治公民館長が人材バンクを作り、学校に呼びかけて要望を整理し、公民館で調整して要請に応えている。（福岡県）

・ボランティアをしたい人のための講座を昨年度から実施している。絵本の読み聞かせの養成講座は、目的がはっきりしているので、参加者も集めやすく、熱意があった。課題としては活躍の場を設けることである。また、目的は明確でないが、何かボランティアがしたいという人たちに対して、考え方や内容などについての講座を行った。心構えは分かったが、具体的に何をするかというところまでには至らなかった。（福岡県）

2　討議の柱②について

～学校を対象としたボランティア養成と人材活用を中心に～

・学者連携の推進という必要感があったので高い壁はなかったが、最初、学校は疑心暗鬼でそれほど期待されていなかったようだ。学校から認めてもらえるまで３年ほどかかった。その後は、英語事業まで広がった。教頭先生との打合せもよかった。（福岡県）

・絵本の読み聞かせ講座は好評だが、授業に入るのは嫌がられる。市が読書活動日本一を掲げて、読書に力を入れており、読み聞かせグループが３つある。授業の邪魔にならないように気を付けている。（鹿児島県）

・区役所の職員がプランを立ててボランティア活動を行っている。アンケートを実施したところ、ボランティアとしての意識は薄く、学校を支援するのは当たり前だと思ってある。小学校からは、多様な要請があり、いろんな職種の方で話ができる人を活用している。後継者対策として、団塊世代を対象とした講座を設けた。何をしていいのかわからないという人達にデビューを進めるという点で効果があると考える。また、そのことが人材発掘にもつながるのではないか。（福岡県）

Ⅳ まとめ（指導助言）

分科会のテーマは「地域の課題」だが、高齢化や子どもをいかに育てるのかという点は共通している。また、地域によって課題は違うが、人間関係の希薄化などの課題も共通している。これらの課題を解決するためには、ボランティア活動や公民館のかかわりが大切だと思う。

益城町は「つなぐ」ことをたいせつにしてあり、それを地域の子供の学びに活かしている。そして、学校とボランティアをする人とをつないでおり、そのコーディネーターがすごい。学校支援のハードルが高いという話があったが、一度に何もかにもやったわけではなく、少しずつ進めている。そろばんについても、学んだことを活かしてやったことが広がっていった。大きく構えても難しいので、一歩ずつ進めていくことが大切である。「GT ではなくて AT」と明確に位置付けてあるが、これは、学校が主体だということ。事前の研修はないが、その点の共通理解はできている。たとえば、通学合宿などで、ボランティアが一生懸命やりすぎて、片づけをやってしまったということがある。思いが強すぎると、大人が手を出しすぎることもある。子どもと学校が中心なので、AT という位置づけと立場の明確化が必要である。

大牟田市では、ボランティアになる方を育てるということで、目的を明確にすると、成果につながりやすいと思った。そうすると、意欲が高い人が集まってくる。また、養成講座をしたときに活動の場までお世話をするとなると、そんなにたくさんはできない。大牟田市では、ボランティアサークルを立ち上げて自立してある。その自立のために、活動中にリーダーを探して、その方がまとめていくことができるように支援してあるそうだ。何かやりたいけどやれないという人や継続化に向けてまとめてくれる人の背中を押すということをしてあるのがいいと思う。ボランティアには、中心になってくれる方や時々ならやれるというサポーター、イベントなら参加するという人の３つの層がある。コアの方々のサポーターになる人をいかに育てるのか。また、イベントならという人たちを時々来れる人へと育てることが大切である。

ボランティアはやりがいが大事なので、そのための雰囲気作りが大切である。学校では、子どもたちがいろんな方たちと関わるとか自分で課題を見つけて解決するということが必要だし、そのためには、学校だけでなく地域の力が必要である。その際、守秘義務などの心構えも大切になる。また、あまりにも手出ししすぎて活動が低下するということにならないように、ボランティアが信頼関係を築いていけるような学びが必要である。「ウィンウィン」とか「ギブアンドテイク」というように、学校も学びができて、地域の人たちも子どもたちのことがわかるというような、お互いに楽しく、いいことという関係が見えるようになるためには、一歩ずつ進めていくことが大切である。「つなぐ」「育てる」ということを共通理解して、学んでいただきながら、ボランティアの人たちが地域づくりをしていってもらいたい。

3 記念講演

京築神楽

野田かつひこ 講演

「ふるさとを想う」

皆さんどうもこんにちは。シンガーソングライターの野田かつひこです。今日は大会、おめでとうございます。今日この日を楽しみにしてきました。公民館というと、地域で活動させてもらっていますけども、ぼく中学生の頃にギターを弾き始めて、どっかで披露したいな、コンサートしたいな、どこでやろうってことで、最初に主催でコンサートしたのが久留米の三潴町の公民館でしたね。そういうことを今日ここに来るときに思い起こしたりしてましたね。今日は僕の演題「ふるさとを想う」ってことで、各地に足を運んで出会った人達、そしてそこで歌が生まれる、そんな僕の歩みの話をさせてもらいながら、歌を交えてお届けしたいと思います。

僕は久留米の三潴町で生まれました。子どもの頃の夢は漫画家になるか、歌手になるか、お坊さんになるというものでした。そういうともしかしたら「あいつ、頭はげとんやないか」と思う人もいるかと思いますけど、ちゃんとありますね。子どもの頃はそうやって夢を追いかけようとしてましたけどね。今は体格いいんですけど、痩せててですね。もう周りから「骨皮筋衛門」なんて言われたりしててですね。自分に自信のない子どもだったんですよ。僕に自信を持たせてくれたのが音楽だったんですよ。小学校の時、ピアノを習いたいって親に言ったんです。うちの父親は久留米のブリジストンで旋盤工をやってました。親父にピアノ習いたいんやけどって言ったら、「おまえ、男が何を言っとるんだ。ピアノは女がやるんだろ。」「ええ、なんだそれ。」海女ちゃんだったら「じぇじぇっ。」ていうかんじですけどね。それでピアノを習わせてもらえなかったんですね。中学校になってからもピアノを習いたいって言ったら「おまえまだ言ってるのか、ピアノは女がやるんだ。」ってほんとこてこての九州の頑固なおやじのもとに生まれたんですけど、そのおかげでじゃあピアノがだめだったらギターを、ギターだったら自分で買えるかもしれんなと新聞配達をやってギターを購入したんですね。先生に習いたいって思ってもそういう家庭なんで先生にって言ったらまた何か言われるんで自分で覚えようと思って当時の平凡とか明星とか雑誌がありましたね。あれに歌本が載ってててギターのコードとか載ってるんですね。ああいうのを自分で覚えようと思ってギターを独学で覚えたんですね。そして最初のコンサートは中学校の文化祭で披露したんですけど自分達の講演ていうのは公民館でさせてもらったんですね。まあでもその後に音楽で生計を立てるっていうところまではなかなかいかずにまずはいろんな社会経験をしようと高校を卒業していろんな職業を経験しましたね。アーティストになるためにはいろんな職業を経験して、いろんな世界を知って歌を作るんだって思いでたくさんのアルバイトとかお仕事をしてましたね。あのころに牧場の手伝いをして牛の出産を三回ぐらい手伝ったことがあるんで

すけどいろんなことをやってましたね。例えば老人施設であったりとか少年鑑別所に歌いに行ったりとかいろんなところに、その当時はアマチュアですからもちろんボランティアでいろんなところを回ってましたね。社会活動にも参加したり、アースデイの大会に参加したり、空き缶を地域で拾って全部拾った後にコンサートもありますって僕が歌ってるんです。公民館でね。そんなこともしてました。でもそうやって地域で歌を歌ったりしてたら社会福祉のお仕事の方からスカウトされたんですね。「なんかギターもって面白いお兄ちゃんがおるよって、うちで就職しませんか」って。「そんな福祉の資格なんて持ってませんからって」「いえいえ大丈夫ですよ。ここに来てもらっていろいろ覚えてもらって勉強してもらったらいいですよ」ってことで特例で福祉の仕事を、授産施設の指導員で入ってたんですね。で、そこに一年半ぐらい働いてましたね。そのころにそれまでにいろいろ地域で歌ったりいろんなことやってた活動が実って東京のレコード会社の方から誘いがあったんですよ。「デビューしませんか」って、うれしかったですね。福祉の仕事も自分にものすごくあってるなあって思っていた時期だったんで、まあでも歌を職業にしたらいろんな人達のところに歌を届けに行けるなあっていう思いで思い切って仕事辞めたんですね。東京のビクターっていう大手の大きなレコード会社ですよ。思い切って仕事も辞めました。退職祝いとかもしてもらってね。日本一のシンガーソングライターになりますってじゃあ職場の人が退職祝いしようねって退職祝いしてもらって仕事を辞めて歌をずっとかいてるんですけど全然連絡がないんですよ。あれ、おかしいなって思って、で近所の人達とかが「かつひこちゃん、いつ CD デビューするの。」「もうすぐだと思いますけどねえ。」って、あまり連絡がないんで東京まで訪ねて行ったんです。そして電話しましたね。その会社に。「あのう九州から来ました野田かつひこですけどなになにさんいらっしゃいますか。」「ああ、そのかたならもう、辞められましたよ。」「じぇじぇっ。」ですね、ほんとにもう。「うわあ芸能界って怖いとこだ」ってそれでもういいわ、ふるさとに帰って目の前にいる人達が喜んでもらえるようなそういう音楽活動をやろうという思いで地域に根ざしていったんですね。でそういう決意を決めてシンガーソングライターっていう名刺を自分で勝手に作ったりしてね。俺はこれを職業にするってやりだしたら、地域の人達からものすごく応援してもらったんです。例えば病院の先生から「うちの病院の歌を作ってもらえませんか。」って、病院の社歌っていうんですかね。作らせてもらったり、学童保育の歌を作らさせてもらったり、いろいろそうやって支えてもらって生活を食いつないでいってましたね。ほんとに地域の人に支えられてるって思いがそのころに染みついていったんですね。なんだろう、こうやって僕は育ててもらってるなあって思いがものすごく強かったですね。

その時期に福岡県のみやま市に造り酒屋がありましてね。野田酒造っていう、全然親戚でも何でもないんですけど。そこに行ったんですね。そこが日本の古来米、赤米を作っていらっしゃる造り酒屋さんだったんですよ。で行ったら赤米の収穫時期のパネルをひろげてて、社長さんに「うわぁ、これきれいな赤米ですね。この赤米のところでコンサートできたらいいなあ。」って話して

たらその社長さんが、「そうですか。じゃあこの酒蔵でコンサートやってみますか。」って酒蔵でコンサートやったんですよ。するとそこに聴きに来てくれてた一人の中国人の留学生が、「野田さん、あんたの歌は中国でうけるよ。」って。日本でうけないのかなあって思いましてね。そしたらその方が本当に「中国に行きましょう。コンサート行きましょう。」うわぁ、きたって思いましたね。まわりの友達が「あんたまた騙されるよ。気をつけたほうがいいよ」って。でもその中国の方の目が輝いてて。「いやあ、大丈夫だよ。」そしたらその方が本当に中国の政府機関に顔のきく方で上海、天津、北京、三大都市をコンサートで回ることができたんですね。これ僕20代、27くらいのときだったかな。で中国に行きました。昼間は小学校などいろいろまわって夜は大人向けのコンサートで迎賓館でコンサートやるんですね。で中国に行って初日のコンサートが小学校だったんですね。小学校に行って大体僕ステージに立つときに体を軽くして舞台に上がることを心がけてるんで小学校のトイレを借りたんですよ。すると低学年が使うトイレを紹介してもらって、「どうぞここでしてください。」すると壁が低いんですよ。このぐらい。立つともう隣の人が見えるような。でそこで用をたしたんですけど。中国行かれたことある人もたくさんいらっしゃると思うんですけど、流そうと思っても流れない。「あれ、おかしいな。」これがもしかしたらトイレ事情がよくないって聞いてましたが、レバーを何回押しても押しても流れない。水洗トイレ10回押しても流れない。よし、これもう見られたら恥ずかしいって20回ぐらい押してガーってやってたところに「あぁ、配水管の調子が悪かったんだ。」向こうのほうから水がやっと流れてきてくれて、音が聞こえてくるんですけど、やったやった流れてくれる流れてくれる流れてくれるって思ったらこの近くぐらいから勢いがブワッて来てもうバカです。ゆっくり見てたんですね。そしたらガーって水がブワッて洪水のようにあふれてきてブワーって飛んでぼくの洋服にウンチがペタッ、ペッタッ、ペタッて。すいませんね、なんかこんなね。ペタッ、ペッタッ、ペタッていやびっくりしました。うわっと思ったら向こうから中国人の方が「野田さんもうすぐ舞台始まりますから早く来てください。」「ええっ。」てそのまま舞台立ったんですけどたぶんあれ見てた中国の方は「うわあ、日本の歌手は変わった模様のズボンとか服着てるなあ。」って思われたかも知れませんがね。で福岡に帰ってきたら読売新聞の方が「その中国のお話は面白いですね。」って野田かつひこ中国歌紀行てのを連載していただいたんです。エッセイを。

その頃からまた運気が変わってきて、何とスカウトされたんですね。どこかと思ったら吉本興業だったんですね。「ちょっと待ってください。お笑いでしょ。」って言ったらいやいや音楽部門を立ち上げるっていうことで僕は九州で初の音楽部門第一号なんですね。しかし未だかつて第二号は誰もいないですね。まあでもこれ運がついた話なんですけどもね。でもそうやって活動が広がっていきました。でも吉本に入ってからは音楽部門、僕しかいないでしょ。だからご一緒させてもらうのはお笑いの方達。よく今テレビに出てらっしゃる華丸大吉さんとかね。オール阪神巨人さん達もご一緒させてもらったりしました。あと池野メダカさん、本当に近くで見ると小さい人でした。この位しかないんですね。そんなことはないですけども。でもやりにくかったのはやりにくかったですね。お笑いの舞台を聞きに来てらっしゃる方ばかりなんで。まじめに歌ってても「うん？いつオチがあるのかなあ」と思われるんで。後はお笑いのステージって垂れ幕が出ますよね。次だれだれって。で出囃子の音楽がトントコトントン、トントコトントン、トントコトントントン。どうもみなさんこんにちはって。でそのステージに漫才があって漫才があって僕の歌があってそしてお芝居がある。そういうステージによく出させてもらってね。ものすごくやりにくい。何歌ったらいいんですか？いえいえいつも通り歌ってください。そしてトントコトント

ン、トントコトントン、トントコトントントン。あの音楽が流れる中では絶対「どうも皆さんこんにちは。」するとお笑いの濃いステージにこだわってしまう。そういうステージをずっとやってました。でもそんな中ずっとね。「自分の歌ってなんだろう。自分の音楽ってなんだろう。」ってずっと考えてました。楽しいステージをずっとやらせてもらいました。でも、「あの歌が聞きたいから野田さんのコンサートに来たいんです。野田さん、九州から歌を発信してるんですよね。ああ、だから九州から発信している意味が何か伝わります。」って、そういうステージができないだろうかってずっと悩んでました。そんな中、いろんな人達と、そして歌を通して少しずつ少しずつ自分の歌を見つけていきました。

～「夕焼けメロディー」～

まずは一曲目。僕の夢をとても応援してくれたおばあちゃんのために作った歌。僕のふるさとの三潴町が舞台になってます。時代の流れが速いこの世の中、変わってほしくないもの、変わってはいけないもの、そういうものがあるんじゃないかっていうのをおばあちゃんの亡くなった七回忌の時に作りました。「夕焼けメロディー」という歌をまずは一曲お送りします。ここにベースがありますけども、ベース奏者の村上さんも今日、応援に来てもらっています。どうぞ村上さん、舞台のほうに来てください。

「夕焼けメロディー」

ばあちゃんがまだまだ若い頃
僕を負ぶってこの道を
通るたびに歌ってくれた

裏の神社の鳥居の前で
見上げた空の向こう側に
夕焼けメロディー
あなたの横顔浮かんできます
丸眼鏡の老眼鏡
お芝居が好きだった
夕焼けメロディー
今日はあなたのために歌います
七年目の夏に
ばあちゃんが夕焼けになる前に
僕が負ぶってこの道を
あの日の続きを歩きました
あなたは病と向き合いながらも
いつでもみなに優しかった
夕焼けメロディー
あなたの歌が聞こえてきます
親戚のおばちゃんが目を細めつぶやいた

人は死んだら何処へゆくのかね
蚊取り線香の煙が揺れている
七年目の夏に

夕焼けメロディー
あなたの横顔浮かんできます
丸眼鏡の老眼鏡
お芝居が好きだった
人も時代もやがては移り変わり
いつかは忘れ去られてく
この道もこの春にアスファルトに変わったよ
だけど今も変わらないのは
あの日見上げた夕焼け
ばあちゃんと見た夕焼け

夕焼けメロディー、聞いてもらいました。皆さんあの「佐賀のがばいばあちゃん」って映画ご存知ですか。知ってらっしゃるって方よかったら拍手していただいて。すばらしいですね。実はこの「夕焼けメロディー」、「佐賀のがばいばあちゃん」の映画の主題歌になりかけた歌なんです。なってないんですね。これがね。洋七さんの所に連れて行ってもらいました。スタッフからこの歌「佐賀のがばいばあちゃん」の映画に絶対いいよって行きましたら洋七さんから「へえ、そうなん知らんかった。さっき決まったばっかりやねん、主題歌。」まあそういうお話があるんですが今は自分の歌としてあちこちで歌わしてもらっています。

～「僕のふるさと玄海島」～

吉本に入ってお笑いの方達ともコラボさせてもらいながら自分の作るべき歌をずっと考えてました。そんな時福岡で大きな地震があったんですね。福岡西方沖地震。あの地震によって福岡の玄海島の人達が大きな被害を受けました。実は僕に「その玄海島の人達を応援するような歌を野田さん作ってください。」ってお話があったんです。でも、いやあそんなね。僕は地震で被災しているわけでもないし、そんな島の人達の気持ちを汲み取ってあげられる自信もないしと思ってたんですね。でも、もしもお役にたてたらって思いでじゃあ島の人達に寄り添って作りたいってことでまだ立ち入り禁止だった玄海島に足を運ばせてもらったり、当時子ども達は福岡の中央区のかもめ広場の仮設住宅に暮らしてました。そこの子ども達と交流をしたりして歌を作ろうという思いが強くなってきましたね。玄海島に足を運んで、島の人達がおっしゃるんですね。海に出てた人達から話を聞くと「野田さん、地震の時ね。島がいったん沈んで見えたんだよ。」そんな話も聞きました。そして玄海島の山の上の農作業をしてた人達から話を聞くと「あの時空が真っ黒に覆われてその後地面から水蒸気がファーと吹き上がってその瞬間大きな揺れが来たんです。怖かったです。」といろんな話を教えてもらいまし

た。玄海島の子ども達にお話をいっぱい聞きたいって思いもあり何度も足を運びました。当時地震が起きて島に住んでるのはお父さん、郵便局の方達だけでした。子ども達おじいちゃんおばあちゃんお母さん達はかもめ広場の仮設住宅のほうに暮らしてました。玄海島は坂道がいっぱいありまして、ちょうど真ん中あたりに小学校、中腹あたりに小学校、上のほうに小学校があって上に中学校がありました。声掛けがあってました。子ども達があんまり駆け上っていくと「あんまり走るとあぶないよ。○○ちゃん。」て。地震が起きた時も誰も亡くなった方はいらっしゃらなかった。それはみんながどの家に住んでてどんな家族形態かってことも知ってある。「あそこのおばあちゃん足が悪かったよ。」「あそこのおじいちゃん一人暮らしだった。」ってことでみんなが助け合って難を逃れた。歌を作るとき子ども達に話を聞いたらみんながみんな「島に帰りたい。玄海島で食べる魚がおいしいんです。海がきれいなんです。」たくさんのふるさとの気持ちを頂きました。

僕は同時に自分のふるさとのことも思い出したりしながら「僕のふるさと玄海島」という歌が生まれました。この歌を作っていろんな報道番組にも取り上げていただいたりしました。そして今でも島に帰れなかった人達もいらっしゃいます。かもめ広場で暮らしてた期間に十数人のお年寄りの方が亡くなってあるんですね。お話を聞くと「島に帰れるんだろうか。自分達の生まれ育ったふるさとどうなったんだろうか。」ってそんな不安が募って体が弱っていった人がほとんどなんですってお話を聞きました。「僕のふるさと玄海島」皆さんもそれぞれのふるさとを思い起こしながら聞いていただけたらと思います。

それでは聞いてください。

「僕のふるさと玄海島」

僕が生まれた玄海島　上り下りの坂道を
君と歩いた　かけのぼった
眩しい季節のなかを
いつか　帰ろう　心の海に輝く島
帰ろう　あの島へ
僕のふるさと　玄海島へ

夢に見たんだ　漁船の上で
今日はとても大量だ
親戚ご近所鍋を囲み
笑顔があふれていたよ
いつか　帰ろう　希望という名の船に乗って
帰ろう　あの島へ
僕のふるさと　玄海島へ

あの日見たんだ　島の涙
時が止まった　あの日から
けれど島は生きている　森も虫も鳥達も

いつか帰ろう　そこに島がある限り
帰ろう　あの島へ
僕のふるさと　玄海島へ

いつか　帰ろう　心の海に輝く島
帰ろう　あの島へ
僕のふるさと　玄海島へ
いつか　帰ろう　空を渡る雲のように
季節は　穏やかな
風を運ぶ　玄海島へ

「僕のふるさと玄海島」聞いてもらいました。この歌を作って島の人達に披露して子ども達がずっと何かの折にはこの歌を歌ってくれていて、そのうち島の人達がこのＣＤ欲しいっておっしゃって、CD にすることにしたんですね。CD にするんだったら子ども達の歌声も入れたいってことで僕が歌ってる歌声と子供達の歌声、いや大丈夫、音をはずしてもいいよ。今の気持ちを録音しようと CD にしたんですよ。そうすることで子ども達が十年後二十年後その CD を聞いたときにあの時地震で大変だったなあ、いろんな人達と関わったなあとか自分達のふるさとのことを思い起こしながらまた新たな歩みを歩んでくれたらいいなあとそういう思いで CD を作って玄海島の全家庭に寄贈させてもらいました。でもこの歌を作ってから僕が今まで悩んでたことの答えが見つかった気がするんですね。全国的なヒットチャートを駆け巡るようなヒット曲じゃなくてもその地の、その地で懸命に生きる人達にとってのヒット曲、そういう歌作りがあるはずだって教えてもらったんですね。僕は九州が大好きです。だからここを拠点にいろんな地域に行って今ふるさとを思う人達の歌、そして命の歌を一曲でも多く作ってその地域に、その時代に刻んでいこう。そういう思いで活動が始まったんですね。

この「僕のふるさと玄海島」は実は去年、一昨年福島県のいわき市、東日本大震災で被災された小名浜地区久ノ浜地区にも歌を届けに行きました。久ノ浜地区では慰霊祭があって、そこで仮設のステージが作られて、津波で流された地域の真ん中に舞台が立てられて慰霊祭ということで皆さんが集まってこられたんですね。その時に僕東北のほうであまりステージやったことないですけどギターを持って仮設のトラックのステージの上に立った瞬間百何十人の人達がウワーッと前に詰め寄ってくれたんですよ。うれしかった。でもその瞬間、あれ、これ誰かと人間違いしてないかって言ったんですよ。「おれビギンじゃないですから。」「わかってるよ。わかってるよ。」きっと遠い九州から歌を届けに来てくれたってことで東北の人達のありがとうっていう思いだったのかなって思いましたけどね。

～「有明ユンヌ」～

そんな感じで歌作りをしながら歩んでおりますが次の歌は奄美大島の話をさせてもらいたいと思います。実は奄美大島が本土復帰 50 周年記念の時に「島を全部回って島の子ども達とワークショップをしながら歌を作ってもらえませんか。」って話が飛び込んできたんですよ。ああいやいいですけど。その以前に奄美大島本土復帰50周年、恥ずかしながら僕はあんまり知らなかったというかね。あの沖縄がそうっだってことを教科書でも学んでたつもりだったんですけど、奄美も

そうだったと。奄美のほうが返還が早かったんですよ。12月25日に返還されたと聞きました。徳之島、沖永良部島、喜界島、奄美、与論島この五つの島をまわりましたね。奄美に行ったときに島の人達が「野田さん見てみて。ほらソテツがたくさんありますよね。でもね。この南国独特のソテツ。戦時中大変だったときはこれをおかゆにして食べてた時代もあるんですよ。」ってそういういろんな話を教えてもらいましたね。最終日が与論だったんです。与論に行ったとき本番まで時間があったんでバイクでも借りて島を一周しようかなってレンタルバイク屋に行きました。「いくらですか。」「2000円です。」って言われて。たぶん15分ぐらいしか乗らないからもっと安くならないかなと思って「今日実はコンサートをやる者なんですが。」って言ったら「ああ、あなたが歌うのね。さっき島内放送で言ってたよ。じゃあ500円でいいよ。」言ってみるもんだなと。バイクに乗って島をぐるっとまわって最南端に行ったときにおじいちゃんおばあちゃん達が日向ぼっこをしてあったんですね。で話しかけてきました。「こんにちは。どっから来たの。」「福岡から来ました。」そしたらね。「福岡。うわあ懐かしいな。大牟田はよく行ったよ。」て言われたんですよ。「へえ、そうなんだ。」その後に驚くような言葉が返ってきて。「大牟田にはね、与論町という町があったもんね。」へえ、あったっけとこっちに帰ってきてから大牟田の友達に話聞くと「いや、ないよ。そんな町。」じゃあなんであのおじいちゃん、おばあちゃん達そんなこと僕に言ったんだろう。うれしそうな顔して言ってあったのが気になって歴史を紐解いていったら実は奄美与論に大干ばつがおきてその時期に大牟田の三池炭鉱が「こっちに来ませんか。いい暮らし待ってますよ。賃金もいいですよ。」っていうことで当時百数十名の方が夢と希望を抱えて海を越えて大牟田の地にたどり着かれた。そしてそこで炭鉱の仕事をされてあったって話がわかったんですね。だけど島から来たってことで過酷な差別があったそうです。でも与論の方達はそれでもがんばられて暮らしてあったそうです。与論にはまことの心っていう精神文化が昔から宿っていろんなつらいことがあっても人間らしく誇りを持ってまっとうに生きるんだってそんな思いに支えられながら僕達のエネルギーを支えてくれた。だから与論の人達が肩寄せあって暮らしてた地域を人々が通称で与論町と呼んでいた。だから地図には載っていない架空の町だったんですね。僕はその話を聞いてね。うちのおじいちゃんは三池炭鉱で働いてました。ピアノはだめだっていたうちの父親も炭鉱社宅に住んでいた時期もあって、「そんな話があったんだ、与論の人達の思いを歌にしたい。」って思いで「有明ユンヌ」って歌を作ったんです。これは有明地方に存在した架空の町、与論町っていう思いが込められています。きっときつい思いをしながら、黒糖焼酎を夜は飲みながら、三線を弾きながら、「明日も頑張ろうね。」って励ましあいながら頑張ってくれてたんじゃないかなってそんなことを思ったりします。歌の中に「ウレイ　トウ　イチュイ　チャソオ」とでてきます。これは「あなたに会いたいなあ」という与論の方言です。歌の中に「ワアチャア」とでてきます。これは「私達」という意味です。歌の中に「百合ヶ浜」とでてきます。これは与論に行くと必ずっていいほど言われます。「野田さん、百合ヶ浜行かれましたか。とても美しい浜ですよ。」与論の方達が誇りに思ってらっしゃる美しい浜でした。きっと有明海を見ながらふるさとの百合ヶ浜を思ってあったんじゃあないでしょうか。そんな思いで「有明ユンヌ」お届けしたいと思います。

「有明ユンヌ」

ウレイ トゥ イチェイ チャソオ
ウレイ トゥ イチェイ チャソオ
おとがなし　おとがなし　おとがなしや　ユング島

島を離れ　見上げる空に
星がきらり　涙ぽろり
まぶた閉じて　溢れる思い
胸に浮かぶ　あぁ百合ヶ浜
風よ伝えて　伝えておくれ
ウレイ トゥ イチェイ チャソオ
あなたに会いたい
ここは有明　有明ユンヌ

山へ向かう　坑夫の背には
青い月の　影が落ちて
山の神に　飾りぞ掛ける
今日もワアチャア　お守りください
つらくないとは　嘘になるけど
ウレイ トゥ イチェイ チャソオ
仲間と囲む
宴楽しや　有明ユング

月を見つけて　見つけておくれ
ウレイ トゥ イチェイ チャソオ
ソテツの花を
咲かせておくれ　有明ユング
咲かせておくれ　有明ユング

月が出た出た　月が出たハヨイヨイ
三池炭坑の　上に出た
あまり煙突が　高いので
さぞやお月さん　けむたかろサノヨイヨイ

ありがとうございます。実はこの歌「有明ユンヌ」と言う歌を作って、大牟田、荒尾地区に与論の人たちの、３世・４世、たくさんの方たちが住んでいらっしゃいます。大牟田・荒尾・与論会というのがあるんですね。そこの方との交流が始まりました。実は、大牟田の地域に○○会館という、与論の人たちの集まる小さな公民館的な所があるんですね。そこに月２回集まられて、

子どもたちに与論の文化をずっと伝えてあるそうなんですね。エーサーを教えたり、三線を弾いたりされていらっしゃいます。この歌を作って与論のその会の方たちに聞いてもらいました。すると、「わー、野田さん。よか歌ば作ってもらって、ととがらし。」って言われたんですね。「ととがらし」というのは、与論の方言で「ありがとう」。その方言がずーっと３世代、４世代に渡って、大牟田の地域でも語り継がれている。「有明ユンヌ」をお届けしました。

～「ふしぎ」～

こうやって、歌作りをしているとですね、時折、色々と新聞に取り上げて頂いたりとか、地元のラジオ番組であるとかテレビで取り上げて頂いたり、「こんな歌を野田さんが作りました。どこどこの町の歌だそうです」とかね、取り上げてもらったりします。玄海島の歌を作ったときは、ほんと多くの報道機関に出させてもらいました。24時間テレビ～愛は地球を救う～であったり、ＮＨＫの番組とか色々。あの時にね、テレビでこの玄海島の歌と心の病を持っている人の気持ちを少しでも汲み取ってあげられたらいいなっていう「タンポポ」という歌を生放送でＮＨＫで歌ったんですね。すると、その歌を聞いた「うつ病」で入院していらっしゃる方からメールが届いたんですね。「タンポポの歌が欲しい。私はうつ病で入院しています。」。そこでその方の病院にＣＤを送ったんです。志免町の病院でした。するとその方が僕のＣＤを病院中の患者の方に「聞いて、聞いて。このＣＤいいから聞いて、聞いて」って。みんなで回し聞きしてくださったんですね。「買ってくれたらもっといいのに」って、思いましたけど。（観客、笑）

でも、すごい勢いでみんなに回ってですね。そして最後にたどり着いたのがヨシカワヒデコさんっていう重症筋無力症っていう難病で30年間闘っていらっしゃる女性のところに届いたんですね。その方は40歳まで普通に生活していらっしゃって、そして、今も70幾つになられますが、病院ベッドの上で命の歌を書き続けていらっしゃる方でした。今度その方からメールが届くようになったんです。周りの看護士さんたちがかわりに、メールを打ってくれて。その内に会いたくなって会いに行きました。するとね、もうヨシカワさん、僕に教えてくれました。私は普通に40まで暮らしていました。ある時にコップの水を飲もうとしたら、力が入らず水を飲めなかった。そして階段を登ろうとしたら、足がくねくねって曲がって、階段を登れなかった。「おかしい」と思って病院に行ったら、「重症筋無力症という病です。」と言われたと。一時期「死にたい」とまで思われたそうです。これは治す方法が分からない難病に指定されている病気でした。どんどん体の力が弱くなって、最後心臓がとまってしまうような、怖い病気。ヨシカワさんも「死んでしまいたい。」そんな思いでおられた。でも歌が助けてくれた。命の歌を病院のベッドで書き続けてあった。そして僕にお願いされたんですね。「野田さん、歌を作って欲しいです」って。「なんでですか」って聞いたら、「私のように病と闘う人に勇気を与えたいんです。」。もう頭をハンマーで「ガーん」って、殴られたような気がしましたね。畳一畳のベッドの上で病院から外に30年間も出たことがない。そんな人が「誰かのために、役に立ちたい」と思っている。「はー、俺は今まで誰かのために役に立つような歌を作ったかな」と。色ん

なことを思い返しました。で、僕はヨシカワさんのために作曲しました。そして命のコンサートが2007年から始まったんですね。「ふしぎ」って歌を、ちょっと短いんですけどお届けします。作詞：ヨシカワヒデコ、作曲：野田かつひこ。ヨシカワさん毎朝起きるときに、「今日も生きてた。」という思いで目が覚めると言われてました。

「ふしぎ」

ふしぎなことは　どこにもあるけれど
わたしの　体をふしぎなことばかり
今にも散りそうなわたしだけど
ふしぎ
ふしぎ
ふしぎだね
この命　だれの贈り物

～「一輪の花」～

「ふしぎ」という命の歌を作って、命のコンサートを始めて、そして「よし、このコンサートを続けていこう」と。「一回切りでもいいからやろう」と思いました。でも２年目、３年目続けていく中、３年目の時に佐賀県にお住まいのご夫婦が僕のことを探してあったんですね。実はそのご夫婦は生まれたばっかりの赤ちゃんが三日間で天国へ行ってしまった。そういう悲しい思いをされていらっしゃるご夫婦でした。その方たちは、佐賀市内にお住まいの方で、本を出してありましたね。自費出版で。「三日間命の輝き、天使になった娘が残してくれたもの」という絵本を書いてある方でした。「歌を作ってもらえませんか」と言われたので、「え、どうしてですか」と聞くと、「もっと、多くの方に命の尊さを伝えたい」ヨシカワさんと同じ思いだったですね。で、「僕に作れるだろうか。」そんな思いが駆け巡りました。でも、それでもコンサートを始めた理由、そしてふるさとにこだわりながら作っている僕は、「なんか、ご縁かもしれない。作ってあげたいな」って。１月にこの方たちと出会って歌つくりが始まりました。こんなことをおっしゃってましたね。「私たちは子どもがずっとできなかった。そして待ちに待った子ども。やっとできた。」といったらば、「生まれてこないかもしれませんよ。染色体の病気を、お子さんはもっていらっしゃいます」と。「それでも、絶対生まれてきてくれる。」と思いを強く強く信じられて、そして奇跡的に赤ちゃんが生まれてきた。赤ちゃんの名前は「まな」ちゃんだったそうです。「でもね、抱っこできたのは３回だけだったんですよ。一回目は生まれてすぐ、次の日。そして最後に抱っこできたのは天国に行く時に、まなちゃんはお母さんの腕の中で、まなちゃんは天国に帰っていった。」。もう歌ができないんですよね。そういって歌を作ろうとすればするほど、その時期になぜか早くお子さんをなくされた方と出会って行って、どんどん日にちが過ぎていく。「はーできないな、できないな」と。でもね、向き合って向き合ってる時に、「あー、今日ならできるかもしれない。」っていう思いで、僕のふるさとの三潴町の田んぼの畦道の所まで車を11時くらいに走らせました。「今日ならできるかも」って、ペンを走らせたんですね。そしたら今まで一行書いては消して、書いては消してで、歌が進まなかったのが、するするするーっとできて、気がついたら朝

になって歌が出来上がってたんです。「うれしい」と思って、歌をワープロで打って清書書きして、日付を入れようと日付を押した時に鳥肌が立ちましたね。5月5日だったんです。「子どもの日じゃないか。もしかしたら、この日を目指すためこの歌はできなかったのかな。」と、そんなことさえ思い出しました。まなちゃんのお父さんとお母さんから、こんなことも教えてもらいました。「野田さん、ほら、才能って色々あるじゃないですか。特技とか。例えば走るのが速い人、お絵かきが得意な人、歌うのが得意な人、人を笑わせるのが得意な人、みんなね天国から生まれてくる前に、『この才能誰がもらっていきます？』って。じゃ私、これは私、『じゃあ病気、誰が貰っていきますか？』って。そんな時にまなちゃんが、『じゃあ、私が貰っていきます。じゃないと、誰かが病気になってつらい思いをするでしょ。』って、生まれてきた優しい子なんです。」っと、教えてもらいました。「一輪の花」という歌が生まれたんです。「この歌の中にね、3つだけ言葉を入れますよ。お母さん何か言葉ないですか？」って伺ったら、「一つは『愛しい宝ものだよ』。一つは『あなたがいてくれるだけでいい』。もう一つは『あなたが、お空で笑えるように』。これは私たちが悲しんでいたら、天国のまなちゃんも悲しむ。だから前向きに生きるんだ。」っていう意味が込められているメッセージでした。「一輪の花」。この歌をお届けしたいなと思います。

「一輪の花」

あなたを　天国へ帰っていった
小さな　小さな　蕾のままで
神様　どうして　こんなに早く　この子を連れて行ったの
風に揺れてる一輪の花　まるであなたの笑顔のように
春のひだまりに抱（いだ）かれて　咲いているよ　命の花
いつまでも　いつまでも　忘れないから

あなたは　天国へ帰っていった
優しい　優しい　歌を残して
どんな　さだめがあるのでしょうか　あなたに　私にとって
あなたがいてくれるだけでいい　ささやかな夢は　お空の向こうへ
この腕の中に抱（いだ）かれて　笑っていた　僕だけが思う
いつまでも　いつまでも　忘れないから

～間奏～

あなたと　いつの日か　きっとまた会える
その日を　信じて　生きてゆくわ
一緒に過ごした僅かな時間は　愛しい宝物だよ
あなたがお空で　にっこりと笑えるように　私も泣かない
心に咲いた一輪の花　ありがとう　ありがとう
いつまでも　いつまでも　忘れないから
いつまでも　いつまでも　忘れないから

～「加志々が好きなんだ」～

あの、いろんな地域にそれぞれのふるさとでいろんな思い抱えて懸命に生きている方がいらっしゃるんだなというのを、歌作りを通して教えてもらっとります。長崎県の対馬という所に、歌作りで行ったんですね。それは、全校生徒９名しかいない中学校で、加志々中学校というところの、最後の文化祭。で、「最後の文化祭を盛り上げて欲しい。で、歌を作って欲しい。」ということで、何度も足を運ぶようになりました。加志々という所は、対馬の空港の北の方で、小さな田舎町。３年生が３名しかいません。最後の卒業生はね。女子生徒たち。その３名の女子生徒たちに思いを聞きましたね。「ねー、対馬のこと、どんなふうに思ってるの？歌を作ろうと思ってるよ。歌を作ろうね。」って。そしたらね。もの凄く、濃い綺麗な、よそいきな言葉が返ってきましたね。「対馬はとても美しいところです。」って言う言葉が返ってきたりですね、「海が綺麗です。山が綺麗です。あー、すばらしい。本当に対馬は美しいです。ああ対馬、ああ対馬」。ほんとかなって思いましたね。ちょっと意地悪してそんなこと言ってしまったんですけど。僕は久留米市三潴町ですが、昔市町村合併する前は、三潴郡三潴町だったんです。で、今は久留米市三潴町。だから昔は郡人だったんです。今は市人になりまして、ちょっといい歌が作れるようになったかな。ま、それくらいのレベルですが。

あの、三潴、今は久留米に合併してますけどね。当時、三潴町って言う所から、久留米に行くのって、遠い感じだったんですね。中学校の時に、初めて彼女ができたんですよ。ギターのおかげですよ。本当に。文化祭に出て、うれしかったですね。運動会の練習の時に、僕が座っていた、こっちのほうからですね、女の子が来てからですね、「かつひこちゃん、○○ちゃんがね、『映画に行きたいっていいよるよ』って。またこっちから女の子が来て、『かつひこちゃん、○○ちゃんが付き合ってって言いよるよ』って、一気に二人も。今までになかった経験だと思って。で、○○ちゃんと映画に行くことになったんですね。当時、三潴町っていったら、久留米まで普通の電車、西鉄電車に乗ってね、５つくらい駅があるのかな。その電車に乗っていく、でもね、もの凄く勇気がいったんですよ。当時の久留米市内ってったら、駅を降りたら人がいっぱいいたから、歩いたら肩が、「バー」って当たるよ。そんな中心地が盛り上がっていた時代でございまして。○○ちゃんと映画、何を見ようかなと。だからパッと入らないと、恥ずかしいし。だから「どこに入ろ、どこに入ろ」って、で「ここに、入ろ」って、入った映画が、人食いワニの映画でした。もう、その後○○ちゃんとは別れてしまいました。その映画はひたすら、人を食ってる、人間を食ってる、「アリゲーター」って映画でしたけどね。まあ、そのくらい、三潴から久留米まで行くのに、すごく大都会って思っていたんで、対馬の加志々の子どもたちが「ああ、対馬」って言ったとき、「本当かなあ」って思いましたね。えーでも、高校は久留米の学校に行くんですね。すると、「あんた、どこ出身なん？」って聞かれたら、「三潴出身」って言ったら、久留米の子からは「ああ、三潴なの、田舎やねえ」って、もの凄く嫌だったですね。思春期の僕としては。「そんな・・・っていっても、田舎だしなあ」って。だから「絶対、対馬の子どもたちの本当の気持ちは違う。」なんて思ってました。当時はね。久留米まで行くのにも、東京に行くって感覚ですよ。で、三潴町から福岡まで行くって言ったら、アメリカに行くような感じですよ。ほんとにね、そんな感じだったです。それで対馬の子どもたちに聞き直したんです。中学校の僕のことも話しながら、「野田さんね。初めて彼女ができてね。家の近所を自転車で女の子と二人乗りしてたら、も

う、そうりゃ大変。今日何回か、親父の存在が出てきますけど、僕は「かつひこ」 父親は「くにひこ」。女の子を自転車の後ろに乗せてたら、「ありゃー、あれ二人乗りしよっちゃっとは、くにひこさんちの息子さんじゃなかと？うわー、女の子ばのしとらっしゃるとばい。」って、近所中広がるんですよ。で、家に帰ったら「かつひこ、女ば乗せてから二人乗りとは、何事じゃ」って、親父から怒られたり。むちゃくちゃ嫌だったですね。もう、近所の人が知ってるんですよね。でもその反面、子どものころ、近所の駄菓子屋に、みんなで買い物行くとね。アイスクリーム。僕はお金持ってない時なんか、そのおばちゃん、「あら、かつひこちゃん、なんで今日アイス買わんと？あ、お金持っとらんとやろ。よかたい。家も知っとるけんね。」。みんな僕のこと知ってくれてる。なんかね、大人になっていくと、凄くそれが居心地が良くて、「あ、俺のホームだ。ここが。みんな、僕のことを知ってくれてる。」ってね。対馬の子どもたち、その後にね、本音を出してくれました。すると対馬の子どもたちは、福岡に憧れているんですね。でもやはり、近所のおばちゃんたちにも、ぐっとおしいこと思ってるしてるみたいです。でも、自分たちのことを、みんな知ってくれてる。そのふるさとは、私たちのホームだ。そんな思いがもの凄く伝わってきたんですね。対馬の子どもたちは、高校卒業したら、対馬を出ないといけない人たちが多いんですね。そういう運命の子が多いです。というのは、島に大学や専門学校がなくて。そして就職口も、そんなにあまりなかったりすると、島を出ないといけない。そんな運命があるということを子どもたちは抱えながら、ちゃんと生きてる。でも、ふるさとへの思いが、もの凄く伝わってきました。ホームレスという言葉があるけれども、ホームレスっていう言葉は本来何なんだろう。家を無くした人のこと？自分の家を無くした人のこと？なんだろう。そんなことも思いました。でも、対馬の子どもたちというのは、俺にもホームがあるんだ。ふるさとがある。ということを思いながら、対馬の廃校になっていく、この中学３年生の女子生徒たちと一緒に、思いを歌にしました。学校は廃校になってしまいましたけど、この歌はみんなの心の中に残ってくれてるんじゃないかと思います。「加志々が好きなんだ」という歌をお届けします。

「加志々が好きなんだ」

輝く自然にかこまれて　私はここに生まれ育った
見渡すかぎり　山と海ばかり　見える景色にうんざりしてた
福岡に行くとビルが立ち並び　町行く人はみな輝いて見え
自分の姿にがっかりして　方言が嫌でなおそうと思った
だけど都会には山もない　輝く自然も海もない
都会の町もいいけれど　私は加志々が好きなんだ
加志々が好きなんだ

私が住んでる加志々には　夜に集まる場所なんてない
学校の帰り道　みんなでカラオケ行きたかった　はしゃぎたかった
制服のスカート短くしてみたかった
スカートいじるとおばちゃんに怒られる
だから帰り道は歌を歌って　坂を下りながら

みんなでおしゃべり
だけどここには山もある　輝く自然も海もある
都会の町もいいけれど　私は加志々が好きなんだ
加志々が好きなんだ

私が二十歳になったとき　たぶん対馬を離れてる
その時　私はふりかえる　こんなに対馬が好きなんだ
加志々が好きなんだ

～「わらしこ」～

実は、この取組を対馬の地元のケーブルテレビさんが、追いかけてくださって、ドキュメンタリー番組ができたんですね。するとそれが、全国のケーブルテレビの大会で報道部門でグランプリが取れたんですね。（会場から拍手）

島に行って打ち上げはどこでやるかというと、公民館でやってましたね。島の人たちが、とれたての魚を持ってきて、公民館で、そこの保護者の方たち、先生たち、子どもたちがきて、そこで、料理を作って食べて飲んで、色々語り合ったことを思い起こしたりします。「加志々が好きなんだ」を聞いていただきました。あ、そうグランプリをとってですね。あ、お知らせで言うと「一輪の花」も実はあとで、マンガの本になったんですよ。全国版のマンガになったり、地道にふるさとに足を運んで歌を作って、それが少し少しずつ各地の人たちのところに届いていってるんだなあとって思ったりします。この「加志々が好きなんだ」を作ってから、北海道のある都市でしたね。今年の３月の下旬ぐらいに、東京のかもがわ出版の方から電話があったんですよ。「『加志々が好きなんだ』を作られた、野田かつひこさんですか」って。「そうですよ。」って言いました。すると「実は『加志々が好きなんだ』を『教育』っていう全国紙に、歌詞を掲載したいんですが」って言われて、「え、どうしてこの歌知ってるんですか？」って言ったら、「どこかで、この歌を聞いてくださった、北海道の中学校の先生が、そこも過疎化が進んでいるということで、ふるさと再生のヒントにならないかっていうことで、授業にこの歌を活用してくださっている」ってことで、嬉しかったですね。そうやって、向き合ってその地の人たちの思いを歌にして、ほんとに地味な活動をしてますが、それがね、そうやって別のどこかのふるさとで暮らしている人たちの思いを重ねてくださっている。そこにもの凄くなんか、感動いたしました。

さあ、もう残すところ時間が迫ってまいりまして、お話・歌は残すところ後、50曲になってしまいました。（笑）そんなことはないです。あと１曲になってしまいました。ちょっとここで、お知らせもありまして。実は後僅かで、僕の講演も終わってしまいますが、実はみなさん今日、ステージ、この講演会を終わられましたら、帰られるときにロビーに、ちょっとお気をつけてみて下さい。もう分かりますよね。僕のＣＤが、並んでるんです。拍手が一人、二人来ました。（拍手）ありがとうございます。それに並んでるだけじゃなくって、売ってるんですよ。これがまたね。10曲入りとかで。１枚2000円なんです。10曲入りとすると、１曲当たり、200円になりますけれども。バラ売りできませんけども、ぜひみなさん、もしよろしかったら、って思っております。ぜひ１枚買ってから、これを回し聴きしようと思わないでくださいね。

今日は色々ふるさとについて、歌作り、そして出会った人たちのことを、みなさんに聞いていただきました。最後にお届けしたい曲は「わらしこ」という歌でお別れしたいと思います。これ

は、命のはじまりの歌です。東北の方の言葉に、赤ちゃんや幼い子どものことを指してます。今、テレビとか新聞とかで見てると、とても悲しい事件が、耳を塞ぎたくなる事件がありますが、生まれたときはどうだったんだろう。きっと誰もが愛情をもらって、「いい子に育てよ。いい人たちに出会っていけよ」って、たくさんの愛情を貰って産まれてきたんじゃないかと、思いたいんですね。みんなが、誰もがふるさとがある。そして、誰もが生まれてきて、そのお父さんお母さん、そのまた上のお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、ずーっと命のリレーが、つながって、今ここにある。そんな思いを込めながら、「わらしこ」という歌でお別れしたいと思います。

えー、今この瞬間にも、日本中、世界中、それぞれの地域で、それぞれのふるさとで、新しい命が生まれてます。僕は、ふるさとで、多くの人たちに育ててもらいました。最初のステージは公民館でね。え、集まってもらって、コンサートやりました。そうやって誰かが支えてくれて、そのお陰で、アーティストとして、この職業にして、今色んな地域に歌を作って、時代に残す。そして恩返しの活動が今できております。これから、今また新しく生まれてくる命。またそれぞれの命をそれぞれのふるさとで育んでいただきながら、そしてまたこれから新しい夢が生まれてくるだろう、その夢をみんなで育んでもらいながら、地域に花を咲かせていけたらいいな。そんな風に思いながら、最後は「わらしこ」という歌でお別れしたいと思います。今日皆さんと出会えて、そしてできるだけ近いうちに、どこかで出会えることを思いながら、命の始まりの歌「わらしこ」で、お別れです。今日はありがとうございました。

「わらしこ」

おまえが生まれた時　みんなどんなに喜んだ
お祝いに鯛を買って　やさしい時間に抱かれて
ちいさな寝息をたてて　どんな夢を見てるのか
生まれ出ずる命　はるかな時を越えて
ありがとうこの愛へ
愛しい　愛しい　愛しや　わらしこよ

おまえもいつの日か　この手をはなれて歩きだし
巡りゆく季節のなか　自分の道と出逢うだろう
風よ　この子の歩み　見守っておくれよ
愛に咲いた命　ありがとうこの愛へ
眠ってる　腕のなか
愛しい　愛しい　愛しや　わらしこよ

生まれ出ずる命　はるかな時を越えて
ありがとうこの愛へ
愛しい　愛しい　愛しや　わらしこよ

これからも、色んな地域に足を運んで歌作りをしていきます。もしかしたら、みなさんと会えることも、いっぱいあるんじゃないかな。よく公民館でね、子どもたちとワークショップをして、ふるさとの歌を作ったりしていますので、もしかしたら今日ここにきていらっしゃる子たちと、出会うことがあるかもしれません。その時はぜひ、声かけてくださいね。

4 ▸▸ 組織等

太宰府天満宮

第64回九州地区公民館研究大会

運営組織

九州地区公民館研究大会役員

会　長	九州公民館連合会会長	（福岡県）
副会長	九州公民館連合会副会長	（鹿児島県）
副会長	九州公民館連合会副会長	（長崎県）

大会運営委員

委員長	中　嶋　　裕　史	九州公民館連合会会長（福岡県）
副委員長	川　添　　健	九州公民館連合会副会長（鹿児島県）
	道　津　　利　明	九州公民館連合会副会長（長崎県）
運営委員	田　中　　源　一	佐賀県公民館連合会会長
	阿　南　誠　一　郎	熊本県公民館連合会会長
	椎　葉　　晃　充	宮崎県公民館連合会会長
	中　野　　五　郎	大分県公民館連合会会長
	城　間　　幹　子	沖縄県公民館連絡協議会会長
	木　原　　茂	福岡県公民館連合会事務局長
	松　原　　美　寿	佐賀県公民館連合会事務局長
	堀　　輝　広	長崎県公民館連絡協議会事務局長
	福　澤　　光　祐	熊本県公民館連合会事務局長
	法　雲　　淳	大分県公民館連合会事務局長
	村　上　　昭　夫	宮崎県公民館連合会事務局長
	北　園　　博　之	鹿児島県公民館連絡協議会事務局長
	藏　根　美　智　子	沖縄県公民館連絡協議会事務局長

第 64 回九州地区公民館研究大会福岡大会企画委員会

第 64 回九州地区公民館研究大会事務局
〒 812-8575 福岡県福岡市博多区東公園 7 番 7 号
福岡県教育庁教育企画部社会教育課内
TEL：092-643-3887　　FAX：092-643-3889

第64回九州地区公民館研究大会　福岡大会

企画委員会

委員長	福岡県公民館連合会会長	須恵町町長	中嶋　裕史
副委員長	福岡県公民館連合会副会長	福岡県社会教育委員連絡協議会会長	重松　孝士
	福岡県公民館連合会副会長	大刀洗町教育委員会教育長	倉鍵　君明
	福岡県公民館連合会副会長	朝倉市志波コミュニティ事務局長	田中富司男
委員	福岡県公民館連合会理事	北九州市教育委員会生涯学習課社会教育主事	井上幸一郎
	福岡県公民館連合会理事	福岡市市民局コミュニティ推進部公民館調整課長	小林　保彦
	福岡県公民館連合会理事	糸島市教育部生涯学習係長	寺本　譲二
	福岡県公民館連合会理事	遠賀町教育委員会生涯学習課長	松井　京子
	福岡県公民館連合会理事	大木町教育委員会生涯学習課長	田中　一成
	福岡県公民館連合会理事	飯塚市教育委員会公民館課長	坂本　哲治
	福岡県公民館連合会理事	上毛町教育委員会教務課長	岡﨑　浩
	福岡県公民館連合会専門部長	筑後市中央公民館長	水落　龍彦
	福岡県公民館連合会専門部員	北九州市教育委員会生涯学習課社会教育主事	下神　晶子
	福岡県公民館連合会専門部員	福岡市市民局コミュニティ推進部公民館調整課運営係長	日野　雅彦
	福岡県公民館連合会専門部員	宇美町教育委員会社会教育課主査	井川　洋志
	福岡県公民館連合会専門部員	直方市教育委員会教育総務課社会教育推進係長	安永　哲也
	福岡県公民館連合会専門部員	大刀洗町教育委員会生涯学習係長	矢野　智行
	福岡県公民館連合会専門部員	糸田町教育委員会教務課長補佐	尾﨑　満敏
	福岡県公民館連合会専門部員	行橋市教育委員会生涯学習係長	村田　貴志
監事	福岡県公民館連合会監事	宮若市教育委員会社会教育課長	白土　成人
	福岡県公民館連合会監事	大任町教育委員会教育課長	桑野　敏朗

第64回九州地区公民館研究大会　福岡大会

事務局

事務局長	福岡県公民館連合会事務局長	福岡県教育庁教育企画部社会教育課長	木原　茂
事務局職員	福岡県公民館連合会参事	福岡県教育庁教育企画部社会教育課参事兼課長補佐	谷本　理佐
	福岡県公民館連合会参事	福岡県教育庁教育企画部社会教育課主幹社会教育主事	内藤　妙子
	福岡県公民館連合会参事	福岡県教育庁教育企画部社会教育課総務班長	小川　善広
	福岡県公民館連合会参事	福岡県教育庁教育企画部社会教育課社会教育班長	肘井　俊広
	福岡県公民館連合会参事	福岡県教育庁教育企画部社会教育課主任社会教育主事	矢野　邦彦
	福岡県公民館連合会書記		太田英実子
	福岡県公民館連合会事務局員		山嵜さおり

九州地区公民館研究大会の歩み

年	回	開催地	大会テーマ
平成元	40	福　岡	「生涯学習社会に対応する公民館の役割・機能を考える」
2	41	鹿児島	「ふれあい学びあいの輪をひろげよう」
3	42	長　崎	「生涯学習社会を創造する公民館活動を求めて」
4	43	宮　崎 （全国集会同時開催）	「生涯学習の推進と地域づくりのために公民館の果たす役割を考えよう」
5	44	大　分	「生涯学習振興の拠点としての公民館のあり方を求めて」
6	45	沖　縄	「生涯学習の推進と公民館活動の活性化を求めて」
7	46	佐　賀	「いま熱く焱える公民館活動！」
8	47	熊　本	「今、求められる魅力ある公民館とは」
9	48	福　岡	「住民とともに築く生涯学習社会と公民館」
10	49	鹿児島 （全国集会同時開催）	「青少年問題と公民館活動」
11	50	長　崎	「住民参画に公民館活動の新たな創造」
12	51	宮　崎	「新しい時代を拓く公民館活動」
13	52	大　分	「21世紀の公民館活動を創造する」
14	53	沖　縄	「新しい時代の公民館活動を創造する」
15	54	佐　賀	「豊かな地域づくりを担う公民館活動の創造」
16	55	熊　本 （全国集会同時開催）	「新しいまちづくりと公民館の創造」
17	56	福　岡	「変化する時代の公民館活動の在り方」
18	57	鹿児島	「時代の要請に応える公民館」
19	58	長　崎	「社会の変化に対応する公民館活動の新たな展開」
20	59	宮　崎	「地域に学び、地域を結ぶ公民館の在り方」
21	60	大　分	「人が育ち、人が集い、人が助け合う公民館の在り方」
22	61	沖　縄	「結い（絆）の心で地域づくりを担う公民館活動」
23	62	佐　賀 （全国集会同時開催）	「地域再建の活路を拓く『原動力』としての公民館」
24	63	熊　本	「人と地域が輝くための公民館活動を目指して」
25	64	福　岡	「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして」

第64回九州地区公民館研究大会（福岡大会）参加者一覧

分科会	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会	第6分科会	第7分科会	全体会のみ	その他	合計
会場	福岡サンパレス（パレスルーム）	福岡国際会議場（502・503）	福岡国際会議場（501）	福岡国際会議場（411・412）	福岡国際会議場（201・202・203・204）	福岡国際会議場（409・410）	福岡国際会議場（413・414）	福岡市民会館		
福岡県	141	114	90	63	384	121	101	150	47	1211
佐賀県	42	6	12	17	27	8	13	1	0	126
長崎県	8	4	11	2	76	9	4	0	0	114
熊本県	15	18	12	3	96	10	20	0	0	174
大分県	16	7	4	5	19	7	9	8	0	75
宮崎県	57	2	92	3	170	13	5	0	0	342
鹿児島県	8	5	37	2	37	6	9	0	0	104
沖縄県	1	7	14	0	8	0	0	0	0	30
その他					4				0	4
合計	288	163	272	95	821	174	161	159	47	2180

※大会運営委員、スタッフを含む

大会運営事務分担

企画委員会

福岡県公民館連合会　会長
福岡県公民館連合会　副会長
福岡県公民館連合会　理事
福岡県公民館連合会　専門部員
福岡県公民館連合会　事務局長
福岡県公民館連合会　事務局員

第 64 回九州地区公民館研究大会事務局

局長　福岡県公民館連合会事務局長
局員　福岡県公民館連合会事務局員
局員　福岡市市民局公民館調整課

総務班

総務係
◎計画・準備の総括

会計係
◎金銭出納事務

資料係
◎要項・資料等の作成配布
◎記録・写真の集約・整理

運営班

全体会係
◎全体会の準備・運営
- 会場設営
- 登壇者、来賓等対応（案内・接待）
- 報道対応
- 救急対応
- 受付
- 記録
- 駐車場

分科会係
◎各分科会の準備・運営
- 会場設営
- 発表者、助言者等対応（案内・誘導）
- 報道対応
- 救急対応
- 受付
- 記録

レセプション係
◎レセプションの準備・運営

大会事務局所在地

〒812-8575 福岡県福岡市博多区東公園７番７号
福岡県教育庁教育企画部社会教育課内
第 64 回九州地区公民館研究大会福岡大会事務局

TEL 092-643-3887
FAX 092-643-3889

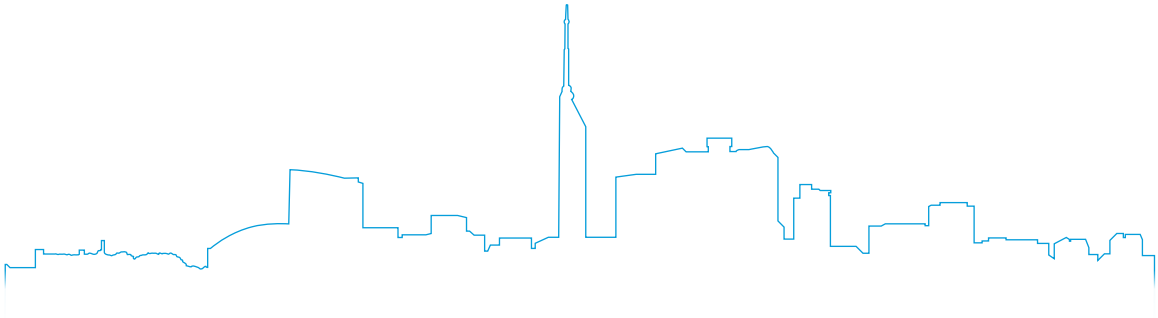
第64回九州地区公民館研究大会福岡大会

報 告 書

平成25年8月29日（木）・30日（金）

平成26年3月発行

【発行・編集】
第64回九州地区公民館研究大会福岡大会事務局
〒812-8575　福岡県福岡市博多区東公園7番7号
〔福岡県教育庁教育企画部社会教育課内〕
TEL 092-643-3887
FAX 092-643-3889
E-mail　fkoren@aurora.ocn.ne.jp



第64回
九州地区公民館研究大会

福岡大会 報告書

次期開催

第65回 九州地区公民館研究大会

平成26年8月28日(木)・29日(金)

鹿児島県鹿児島市 - 鹿児島市民文化ホールほか

〒890 - 0062 鹿児島県鹿児島市与次郎2丁目3番1号